

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成31年3月28日
【事業年度】	第101期（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）
【会社名】	小林製薬株式会社
【英訳名】	KOBAYASHI PHARMACEUTICAL CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小林 章浩
【本店の所在の場所】	大阪市中央区道修町四丁目4番10号
【電話番号】	06(6231)1144(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役グループ統括本社本部長 山根 聡
【最寄りの連絡場所】	大阪市中央区道修町四丁目4番10号
【電話番号】	06(6231)1144(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役グループ統括本社本部長 山根 聡
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次		第97期	第98期	第99期	第100期	第101期
決算年月		平成27年3月	平成28年3月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
売上高	百万円	128,344	137,211	120,051	156,761	167,479
経常利益	〃	18,843	17,949	19,499	24,191	27,374
親会社株主に帰属する 当期純利益	〃	12,448	13,466	14,321	15,863	18,023
包括利益	〃	17,350	12,537	13,114	19,474	16,901
純資産	〃	139,611	142,023	143,320	153,811	166,249
総資産	〃	186,331	188,997	201,234	218,831	230,989
1株当たり純資産	円	3,423.54	1,766.06	1,818.10	1,947.82	2,102.49
1株当たり当期純利益	〃	305.46	165.56	179.12	201.31	228.05
潜在株式調整後1株当 たり当期純利益	〃	-	165.30	178.86	201.03	227.95
自己資本比率	%	74.8	75.1	71.2	70.3	72.0
自己資本利益率	〃	9.4	9.6	10.0	10.7	11.3
株価収益率	倍	28.2	29.8	27.9	36.4	32.8
営業活動によるキャッ シュ・フロー	百万円	15,445	14,329	16,097	22,350	20,007
投資活動によるキャッ シュ・フロー	〃	4,540	10,932	519	7,039	8,062
財務活動によるキャッ シュ・フロー	〃	5,155	10,199	11,922	9,162	4,285
現金及び現金同等物の 期末残高	〃	32,399	25,428	28,322	48,688	55,916
従業員数 (ほか、平均臨時雇用 者数)	人	2,576 (571)	2,804 (569)	2,994 (570)	3,033 (603)	3,271 (566)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第99期より決算日を3月31日から12月31日に変更しております。これに伴い、第99期は、当社並びに3月決算の連結子会社は平成28年4月1日から平成28年12月31日までの9ヶ月間、12月決算の連結子会社は平成28年1月1日から平成28年12月31日までの12ヶ月間を連結対象期間としております。

3. 平成28年7月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施したため、第98期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益、潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

4. 第97期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第97期	第98期	第99期	第100期	第101期
決算年月		平成27年 3月	平成28年 3月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
売上高	百万円	111,502	118,528	101,157	133,522	141,456
経常利益	〃	16,188	16,817	17,072	20,910	22,643
当期純利益	〃	10,552	15,044	11,191	15,103	16,659
資本金	〃	3,450	3,450	3,450	3,450	3,450
発行済株式総数	千株	42,525	42,525	85,050	82,050	82,050
純資産	百万円	123,029	129,004	129,046	138,874	150,446
総資産	〃	167,376	171,577	181,303	197,942	209,964
1株当たり純資産	円	3,016.87	1,604.93	1,636.95	1,758.61	1,902.63
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	〃	90.0 (44.0)	96.0 (48.0)	52.0 (25.0)	58.0 (28.0)	66.0 (31.0)
1株当たり当期純利益	〃	258.94	184.95	139.97	191.67	210.79
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	〃	-	184.67	139.77	191.40	210.70
自己資本比率	%	73.4	75.1	71.1	70.1	71.7
自己資本利益率	〃	8.9	12.0	8.7	11.3	11.5
株価収益率	倍	33.2	26.7	35.7	38.2	35.4
配当性向	%	34.8	26.0	37.2	30.3	31.3
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数)	人	1,177 (220)	1,154 (202)	1,223 (188)	1,267 (197)	1,346 (192)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第99期より決算日を3月31日から12月31日に変更しております。これに伴い、第99期は、平成28年4月1日から平成28年12月31日までの9ヶ月間を対象期間としております。

3. 平成28年7月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施したため、第98期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産及び1株当たり当期純利益、潜在株式調整後1株当たり当期純利益を算定しております。

4. 第97期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【沿革】

当社の前身は、明治19年2月に小林忠兵衛が名古屋市中区に創業した、雑貨・化粧品店の合名会社小林盛大堂であります。その後同社は、明治21年に医薬品卸業界に参入しております。

年月	概要
大正8年8月	合名会社小林盛大堂と合資会社小林大薬房を合併改組し、株式会社小林大薬房を設立、本店を大阪市西区に置く
昭和15年11月	製剤部門を分離、小林製薬株式会社を設立
昭和31年4月	小林製薬株式会社を合併
5月	商号を小林製薬株式会社に変更
11月	本社を大阪市東区（現在の中央区）に移転
昭和42年3月	外用消炎鎮痛薬「アンメルツ」を全国発売し、家庭用品製造販売事業の基盤確立
昭和44年6月	水洗トイレ用芳香洗淨剤「ブルーレット」を発売し、日用雑貨分野へ新規参入
昭和47年6月	医療関連事業に参入するため米国のC.R.Bard, Inc.と提携、株式会社日本メディコ（現 株式会社メディコン）を設立
昭和50年5月	芳香剤「サワデー」を発売し、芳香・消臭剤市場へ本格的に参入
昭和57年3月	製造強化のため、富山小林製薬株式会社を設立
昭和63年6月	衛生雑貨品の製品ラインを強化するため、株式会社エンゼル（現 愛媛小林製薬株式会社）を子会社化
平成4年10月	医療関連事業拡大のため、小林メディカル事業部を設置
11月	製造強化のため、仙台小林製薬株式会社を設立
平成8年2月	整形外科市場での基盤強化のため、Medtronic Sofamor Danek, Inc.との合併会社小林ソファモアダネック株式会社を設立
平成10年9月	アジア地域の製造・販売拠点として、上海小林友誼日化有限公司を設立
9月	米国の製造・販売拠点として、Kobayashi Healthcare, LLCを設立
平成11年4月	大阪証券取引所市場第二部に上場
平成12年8月	東京証券取引所市場第一部に上場、大阪証券取引所市場第一部に指定
9月	中央研究所を新築移転
10月	卸事業を分社化するため、株式会社コパショウを設立
平成13年6月	カイロ事業への新規参入のため、桐灰化学株式会社を子会社化
8月	英国の販売拠点として、Kobayashi Healthcare Europe, Ltd.を設立
平成14年4月	小林ソファモアダネック株式会社の株式を売却し、合併契約を解消
12月	日立造船株式会社から健康食品事業（杜仲茶）の営業権を譲り受ける
平成17年3月	小林コーム株式会社の株式を100%取得、Combe International Ltd.の有する日本における商標権を譲受け
7月	井藤漢方製薬株式会社と業務資本提携
12月	小林コーム株式会社を吸収合併
平成18年11月	メーカー機能を強化するため、eVent Medical, Ltd.を子会社化 米国事業を強化するため、Heat Max, Inc.を子会社化
平成20年1月	株式会社コパショウの株式と株式会社メディセオ・パルタックホールディングスの株式を株式交換
10月	カイロの製造を一元管理するため、桐灰化学株式会社の会社分割により、桐灰小林製薬株式会社を設立
平成21年4月	井藤漢方製薬株式会社との業務資本提携を解消
平成22年4月	医療機器業界を取り巻く市場環境が激変する中、競争力を高めるため、当社の医療機器事業部門の小林メディカルカンパニーを会社分割し、小林メディカル株式会社を設立
平成24年4月	効率的な生産体制の構築を目的に、今後拡大する中国での需要に対応するため、合肥小林日用品有限公司を設立
5月	医療機器市場においてさらなる成長を目指すため、小林メディカル株式会社の株式の80%を三菱商事株式会社に譲渡（同社は平成24年11月1日付けで日本メディカルネクスト株式会社に社名変更）
平成25年5月	日本メディカルネクスト株式会社の全株式を三菱商事株式会社に譲渡
9月	スキンケア事業を強化するため、ジュジュ化粧品株式会社を子会社化
平成27年11月	Bard International, Inc.と合併関係を解消し株式会社メディコンの全株式を株式会社メディコンに譲渡

年月	概要
平成28年 9月	米国での一般用医薬品強化のため、Berlin Industries, Inc.及びその子会社のPerfecta Products, Inc.を子会社化
平成30年 4月	中国での現地グループ会社の経営管理強化と資金需要への機動的な対応のため、統括会社「小林製薬（中国）有限公司」を設立
6月	中国での一般用医薬品強化のため、江蘇中丹製薬有限公司を子会社化、会社名を「江蘇小林製薬有限公司」に変更
7月	スキンケア事業を強化するため、株式会社True Natureを子会社化

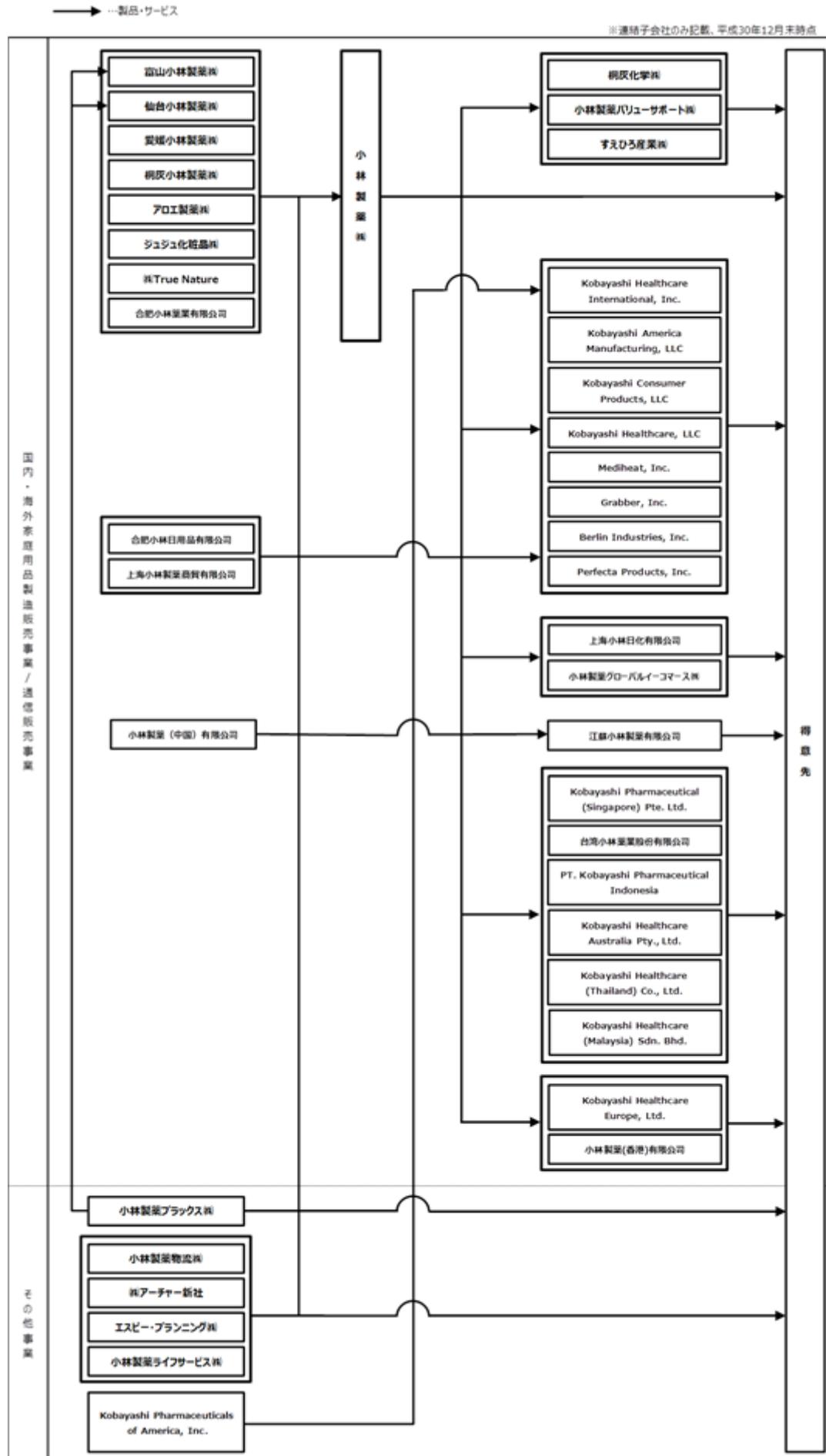
3【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社(小林製薬株)、子会社44社及び関連会社1社により構成されており、事業は、国内家庭用品製造販売事業、海外家庭用品製造販売事業、通信販売事業、その他事業を主に従事しております。事業内容と当社及び関係会社の当該事業に係る位置づけ並びにセグメントとの関連は、次のとおりであります。

区分	主要製品及び商品	主要な会社
国内家庭用品製造販売事業 海外家庭用品製造販売事業 ヘルスケア(医薬品)	アンメルツ、 アイボン、 のどぬ〜る、 命の母、 ナシトール	当社、富山小林製薬株、仙台小林製薬株、 Kobayashi Healthcare,LLC、アロエ製薬株、 小林製薬(香港)有限公司、 Kobayashi Pharmaceutical(Singapore)Pte.Ltd.、 Kobayashi Healthcare(Malaysia)Sdn.Bhd.、 PT.Kobayashi Pharmaceutical Indonesia、 合肥小林薬業有限公司、Perfecta Products,Inc.、 江蘇小林製薬有限公司 (会社総数 12社)
ヘルスケア(口腔衛生品)	タフデント、 パーシャルデント、 タフグリップ、 糸ようじ、 ブレスケア	当社、富山小林製薬株、仙台小林製薬株、 上海小林日化有限公司、 小林製薬グローバルイーコマース株 (会社総数 5社)
日用品(芳香・消臭剤)	サワデー、 無香空間、 ブルーレット、 消臭元、 キムコ、 トイレその後	当社、富山小林製薬株、仙台小林製薬株、上海小林日化有限 公司、小林製薬(香港)有限公司、 小林製薬バリューサポート株 (会社総数 6社)
日用品(雑貨品及び食品) カイロ	熱さまシート、 サラサーティ、 ポット洗浄中、 あせワキパット、 ケシミン	当社、富山小林製薬株、愛媛小林製薬株、仙台小林製薬株、 桐灰化学株、桐灰小林製薬株、ジュジュ化粧品株、 Kobayashi Healthcare,LLC、 Kobayashi Healthcare Europe,Ltd.、 Kobayashi Consumer Products,LLC、Mediheat,Inc.、 上海小林日化有限公司、小林製薬(香港)有限公司、 上海小林製薬商貿有限公司、 Kobayashi Pharmaceutical(Singapore)Pte.Ltd.、 Kobayashi Healthcare(Malaysia)Sdn.Bhd.、 PT.Kobayashi Pharmaceutical Indonesia、Grabber,Inc.、 Kobayashi America Manufacturing,LLC、 台湾小林薬業股份有限公司、合肥小林日用品有限公司、 Kobayashi Healthcare Australia Pty.,Ltd.、 Kobayashi Healthcare(Thailand)Co.,Ltd.、 小林製薬バリューサポート株、 小林製薬グローバルイーコマース株、株True Nature (会社総数 26社)
米国の持株会社	-	Kobayashi Healthcare International,Inc. (会社総数 1社)
中国の統括会社	-	小林製薬(中国)有限公司 (会社総数 1社)

区分	主要製品及び商品	主要な会社
通信販売事業 食品及びスキンケア	グルコサミン&コラーゲンセット、 ヒフミドシリーズ、 アロエ育毛液	当社、富山小林製薬(株)、アロエ製薬(株) (会社総数 3社)
資産管理	-	Kobayashi Pharmaceuticals of America, Inc., Berlin Industries, Inc. (会社総数 2社)
運送業	当社商品の保管、配送 当社製品の配送	小林製薬物流(株) (会社総数 1社)
合成樹脂容器の製造販売	当社製品の容器	小林製薬プラックス(株) (会社総数 1社)
不動産管理業	建物の賃貸、駐車場賃貸	当社、小林製薬ライフサービス(株) (会社総数 2社)
保険代理業	損害保険、生命保険	小林製薬ライフサービス(株) (会社総数 1社)
広告企画制作	当社広告の企画	(株)アーチャー新社 (会社総数 1社)
販促用品製作	当社販売促進用品(什器)	エスピー・プランニング(株) (会社総数 1社)
販売促進・市場調査	当社製品の販売促進	小林製薬セールスプロモーション(株) (会社総数 1社)
	当社製品の市場調査	小林製薬セールスプロモーション(株)、(株)アーチャー新社 (会社総数 2社)
小売業	家庭用医薬品、栄養補助食品、化粧品、日用雑貨	すえひろ産業(株)、(株)アロエガーデン (会社総数 2社)
薬局の経営	漢方薬	小林盛大堂(株) (会社総数 1社)
清掃業	-	小林製薬チャレンジド(株) (会社総数 1社)
情報処理	データの保管・加工処理	(株)ザ・ファン (会社総数 1社)

事業の系統図は次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

会社名	住所	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権 の所有 割合 (%)	関係内容				
					役員 の兼 任	資金 援助	営業上の取引	設備の賃貸 借	業務提 携等
連結子会社									
富山小林製薬(株)	富山県富山市	100	医薬品、芳香・消臭剤等の製造	100.0	有り	有り	当社製品の製造	土地及び建物の賃貸	-
仙台小林製薬(株)	宮城県黒川郡大和町	200	医薬品、芳香・消臭剤等の製造	100.0	有り	有り	当社製品の製造	土地及び建物の賃貸	-
愛媛小林製薬(株)	愛媛県新居浜市	77	衛生用品、紙用品の製造	100.0	有り	有り	当社製品の製造	-	-
桐灰化学(株)	大阪市淀川区	49	カイロ等の販売	100.0	有り	-	当社製品の販売	-	-
桐灰小林製薬(株)	兵庫県三田市	49	カイロ等の製造	100.0	有り	-	当社製品の製造	-	-
ジュジュ化粧品(株)	大阪府茨木市	50	化粧品等の製造・販売	100.0	有り	有り	当社製品の製造及び販売	-	-
アロエ製薬(株)	静岡県島田市	40	アロエ製品等の製造	100.0	有り	有り	当社製品の製造	-	-
小林製薬ブラックス(株)	富山県富山市	95	合成樹脂加工品の製造	100.0	有り	有り	当社材料及び製品の製造	-	-
エスピー・プランニング(株)	大阪市中央区	10	ディスプレイ、模型等の制作等	100.0	有り	-	当社販促用品の製作	-	-
(株)アーチャー新社	東京都中央区	10	広告企画制作	100.0	-	有り	当社広告企画及び市場調査	-	-
すえひろ産業(株)	大阪市中央区	15	日用雑貨品等の小売販売	100.0	-	-	当社製品の販売	-	-
小林製薬ライフサービス(株)	大阪市中央区	10	保険代理業、不動産管理	100.0 (0.5)	-	-	不動産管理	土地及び建物の賃貸	-
小林製薬物流(株)	大阪市中央区	10	運送業	100.0	有り	-	当社製・商品の保管配送	-	-
(株)True Nature	大阪市中央区	10	化粧品の製造販売	100.0	有り	有り	当社製品の製造	-	-
小林製薬バリューサポート(株)	大阪市中央区	10	日用雑貨品等の販売	100.0	-	-	当社製品の販売	-	-
小林製薬グローバルイーコマース(株)	大阪市中央区	10	日用雑貨品等の販売	100.0 (100.0)	有り	-	当社製品等の販売	-	-
Kobayashi Pharmaceuticals of America, Inc.	大阪市中央区	米ドル 1	資産管理	100.0	-	-	-	-	-
Kobayashi Healthcare, LLC	アメリカ合衆国ジョージア州	米ドル -	日用雑貨品の販売	100.0 (100.0)	-	-	当社製品の販売	-	-
Kobayashi Healthcare Europe, Ltd.	英国ロンドン市	英ポンド 14,081	日用雑貨品の販売	100.0	-	-	当社製品の販売	-	-
上海小林日化有限公司	中国上海市	中国元 160,326,485	日用雑貨品の製造・販売	100.0	-	-	当社製品の販売	-	-
合肥小林日用品有限公司	中国合肥市	中国元 58,661,780	日用雑貨品の製造	100.0	-	有り	当社製品の製造	-	-
合肥小林薬業有限公司	中国合肥市	中国元 46,799,591	漢方製剤品の製造	90.0	-	有り	当社原材料の製造	-	-
上海小林製薬商貿有限公司	中国上海市	中国元 25,648,850	家庭用品製造販売事業の情報収集及び品質管理	100.0	有り	-	当社原材料の購入先	-	-

会社名	住所	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権 の所有 割合 (%)	関係内容				
					役員 の兼 任	資金 援助	営業上の取引	設備の賃貸 借	業務提 携等
小林製薬(香港)有限公司	中国香港	香港ドル 1,570,000	日用雑貨品等 の販売	100.0	-	-	当社製品の販 売	-	-
小林製薬(中国)有限公司	中国上海市	中国元 128,416,000	中国現地法人 の統括	100.0	-	有り	-	-	-
江蘇小林製薬有限公司	中国泰興市	中国元 50,000,000	医薬品の製 造・販売	100.0 (100.0)	-	-	当社製品の製 造・販売	-	-
Kobayashi Pharmaceutical (Singapore) Pte.Ltd.	シンガポール共 和国 シンガポール	シンガポール ドル 300,000	日用雑貨品等 の販売	100.0	-	-	当社製品の販 売	-	-
台湾小林製薬股分有 限公司	中華民国 台北市	新台幣ドル 8,000,000	日用雑貨品等 の販売	100.0 (100.0)	-	-	当社製品の販 売	-	-
Kobayashi Healthcare (Malaysia) Sdn.Bhd.	マレーシア クアラルンプ ール市	マレーシア リンギット 1,000,000	日用雑貨品等 の販売	100.0 (100.0)	-	-	-	-	-
PT.Kobayashi Pharmaceutical Indonesia	インドネシア共 和国 バンテン州	千インドネシ アルピア 2,272,500	日用雑貨品等 の販売	95.0 (95.0)	-	-	-	-	-
Kobayashi Healthcare Australia Pty.,Ltd.	オーストラリア 連邦 メルボルン市	オーストラリ アドル 864,000	日用雑貨品等 の販売	100.0 (100.0)	-	-	当社製品の販 売	-	-
Kobayashi Healthcare (Thailand) Co.,Ltd.	タイ バンコク市	タイバーツ 100,000,000	日用雑貨品等 の販売	100.0 (100.0)	-	-	-	-	-
Kobayashi Healthcare International, Inc.	アメリカ合衆国 ジョージア州	米ドル 6,200	持株会社	100.0	-	-	-	-	-
Kobayashi Consumer Products, LLC	アメリカ合衆国 ジョージア州	米ドル -	カイロ等の販 売	100.0 (100.0)	-	-	-	-	-
Kobayashi America Manufacturing, LLC	アメリカ合衆国 ジョージア州	米ドル -	カイロ等の製 造	100.0 (100.0)	-	-	当社製品の販 売	-	-
Grabber, Inc.	アメリカ合衆国 ミシガン州	米ドル 10	カイロ等の販 売	100.0 (100.0)	-	-	-	-	-
Mediheat, Inc.	アメリカ合衆国 ジョージア州	米ドル 10	カイロ等の製 造・販売	100.0 (100.0)	-	-	-	-	-
Berlin Industries, Inc.	アメリカ合衆国 ジョージア州	米ドル 1	資産管理	100.0 (100.0)	-	-	-	-	-
Perfecta Products, Inc.	アメリカ合衆国 ジョージア州	米ドル 500	医薬品等の販 売	100.0 (100.0)	-	-	-	-	-

- (注) 1. 特定子会社は、富山小林製薬㈱、仙台小林製薬㈱、桐灰小林製薬㈱、上海小林日化有限公司、上海小林製薬商貿有限公司、Kobayashi Healthcare, LLC、合肥小林日用品有限公司、合肥小林製薬有限公司、小林製薬(中国)有限公司、江蘇小林製薬有限公司であります。
2. 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
3. 「議決権の所有割合」欄の(内書)は間接所有割合であります。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成30年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
国内家庭用品製造販売事業	1,962 (396)
海外家庭用品製造販売事業	940 (-)
通信販売事業	63 (56)
報告セグメント計	2,965 (452)
その他	108 (98)
全社	198 (16)
合計	3,271 (566)

- (注) 1. 従業員数は就業人員です。
 2. () は、臨時雇用者(パートタイマーを含み、派遣社員を除く)の人員を外数で記載しております。
 3. 全社として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成30年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,346 (192)	40.9	13.6	6,894,928

セグメントの名称	従業員数(人)
国内家庭用品製造販売事業	1,051 (120)
海外家庭用品製造販売事業	34 (-)
通信販売事業	63 (56)
報告セグメント計	1,148 (176)
その他	- (-)
全社	198 (16)
合計	1,346 (192)

- (注) 1. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。
 2. 従業員数は就業人員です(当社から社外への出向者を除く)。
 3. () は、臨時雇用者(パートタイマーを含み、派遣社員を除く)の人員を外数で記載しております。
 4. 全社として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合はU A ゼンセン同盟に属し、平成30年12月31日現在の組合員数は、913名(出向社員含む)であります。なお、労使関係は円満に推移しており、特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

(1) 経営方針および経営環境

今後のわが国の経済は、政府の景気対策の継続などにより企業収益や雇用の改善など回復基調に推移しているものの、世界情勢の不安定さから依然厳しい状況が続くと予想されます。

このような状況にあって、当社グループでは「“あったらいいな”をカタチにする」をブランドスローガンに、今までにない付加価値のある新製品を開発し、お客様に提供してまいります。

国内家庭用品製造販売事業では、今春、歯周ポケットの汚れや歯垢を効果的に掃除できる「生葉45° 磨きブラシ」、 “火” を使わずにアロマキャンドルのような甘く濃厚な香りを楽しめるインテリアフレグランス「Sawaday香るStickアロマキャンドル」、女性のからだの変化にあわせた少しだけ『ワイド』で『ロング』なおりものシート「サラサーティ コットン100ワイド&ロング」、古い角質をふきとることでシミ対策成分をお肌に浸透させる化粧水「ケシミンふきとり しみ対策液」など10品の新製品を発売し、新たな需要喚起を図るとともに、既存製品の育成に努めてまいります。

海外家庭用品製造販売事業では、米国・中国・東南アジアを中心に、カイロ、額用冷却シート「熱さまシート」、外用消炎鎮痛剤「アンメルツ」を柱とした販売戦略に取り組んでまいります。

通信販売事業では、栄養補助食品やスキンケア製品において広告やダイレクトメールなどによる販売促進を積極的に行い、新規顧客の獲得と既存顧客の継続購入の促進に努めてまいります。

(2) 経営戦略および目標とする経営指標

当社グループでは「人と社会に素晴らしい『快』を提供する」という経営理念のもと、今までにない新製品をお客様に提供することで、お客様のお困りごとを解決する新市場創造NO.1企業を目指し、平成29年12月期から平成31年12月期までの中期経営計画を策定しています。中期経営計画のテーマを「実力ある成長」とし、4つの戦略骨子のもと、次なる成長へつなげるための基盤づくりに取り組んでまいります。

4つの戦略骨子

1. 成長4事業の推進（海外事業・通販事業・スキンケア事業・漢方事業）
2. 将来のための成長投資
3. 新市場創造製品の開発と育成
4. 従業員が成長を実感できる企業

業績目標（平成28年11月1日発表）

	平成31年12月期目標
売上高	1,650億円
営業利益	230億円
親会社株主に帰属する当期純利益	170億円
ROE	10%

(3) 対処すべき課題

当社がさらなる成長を成し遂げるためには、中期経営計画に基づき、海外・通販・スキンケア・漢方の成長4事業を伸ばし、新市場創造製品の開発と育成に取り組み、M&Aや研究開発投資を積極的に行う必要があります。

対処すべき課題としては、「成長4事業」「将来のための成長投資」「成長実感」「ESG」を掲げております。

成長4事業

「海外事業」「通販事業」「スキンケア事業」「漢方事業」それぞれの事業、領域で課題を克服し、最大限の成長を実現するよう取り組んでまいります。なかでも海外事業を最注力し、全部門が連携しサポートして成長を後押しする体制を整えております。

将来のための成長投資

将来の「あったらいいな」を生み出す中長期テーマの実現に向けて、社内外の知見を最大限に活用し、製品化の確度を高めていくよう基盤を強化してまいります。

成長実感

自分の成長、部下の成長を後押しするアイデアを出し合い、成長をうながすプロセスの共有の場を作り、全体のレベルアップを図ることができるよう制度を整えております。

ESG（環境・社会・ガバナンス）

持続的成長のためにESG視点で仕事を見つめ直し、長期のありたい姿を描けるよう取り組みを推進しております。

上記のほか、M&A、新規事業、研究開発への積極的な投資を行ってまいります。

また、コーポレート・ガバナンスの重要性がますます高まるなか、当社では独立社外取締役の複数名の選任、人事指名委員会や報酬諮問委員会の設置などコーポレート・ガバナンス向上の取り組みを行ってまいりました。

今後も引き続き、取締役会のさらなる活性化など、より一層の強化を図ってまいります。

（４）株式会社の支配に関する基本方針について

当社は、平成19年6月28日開催の第89期定時株主総会において株主の皆様の承認を受け、当社株式の大規模買付行為に関する対応策を導入し、平成28年6月29日開催の第98期定時株主総会において、株主の皆様の承認を受け継続いたしました。

基本方針の内容の概要

小林製薬グループは、「我々は、絶えざる創造と革新によって新しいものを求め続け、人と社会に素晴らしい『快』を提供する」という経営理念の下、家庭用品製造販売事業を中心に営んでおります。家庭用品製造販売事業では、常に新市場を創造する製品やサービスの提供により顧客の潜在ニーズを開拓することに努めております。

同時に、人々の健康や命に関わる製品やサービスを提供していることから、より徹底した品質管理の実践にも取り組んでおります。これらはお客様にとっての「健康であること」、「心地よいこと」、「便利であること」等を提供する、いわば“あったらいいな”をカタチにするという精神をもって事業活動を行うものであり、総合健康企業としての当社の使命であると考えております。

当社は上場会社である以上、当社の株式が市場で自由に取引されるべきことは当然であり、特定の者の大規模な買付行為であっても、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。また、会社の支配権の移転を伴うような当社の株式買付提案に応じるか否かの最終判断は株主の皆様に委ねられるべきものであります。

しかし、株式の大規模な買付のなかには、専ら買付者自らの利潤のみを追求しようとするもの、株主の皆様の株式の売却を事実上強要するもの、対象会社の取締役会や株主の皆様が大規模買付の内容等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの等、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうと思われるものも散見されます。

当社が、企業価値の源泉を見失うことなく、企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させていくためには、常に中長期的な視点に立ち、参入している各事業領域でナンバーワンとなる競争力を強化する必要があります。具体的には、競合他社よりも早くお客様に今までになかった価値ある製品やサービスを提供することにより新市場を創造する戦略と、既存事業をより強固にする戦略を同時に遂行することであると考えております。これを当社グループが具現化できる所以は、全社員がブランド憲章を共有していると同時に、それを実現できる自由闊達でチャレンジできる社風が整っているからだと考えております。

一方、平成30年12月31日現在において、当社役員およびその関係者によって発行済株式の約31%が保有されております。しかし、当社の大株主は個人株主でもあることから各々の事情に基づき株式を譲渡その他の処分をしていく可能性は否定できません。また、今後も株式の一層の流動性の向上および株主数の増加を目的とした施策の実施もあり得ることから、その場合にはそれら株主の持株比率が低下する可能性があります。このため今後、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する株式の大規模な買付がなされる可能性を有すると考えております。

これらを考慮し、企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上を目的として、当社に対して下記 a.(a)または(b)に該当する買付け等（取締役会が友好的と認めるものを除き、以下「大規模買付行為」といいます。）が行われた際に、かかる大規模買付行為を行う者（以下「大規模買付者」といいます。）に対し、遵守すべき手続きを明確にし、株主の皆様が適切な判断を行うための時間と情報を確保するとともに、株主の皆様に経営陣の計画や代替案等を提示したり、大規模買付者との交渉等を行っていくことを可能とするため、「当社株式の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」の継続を決定いたしました（以下当社株式の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）を「本プラン」といいます。）。

基本方針の実現に資する取組みの概要

当社グループはお客様の「“あったらいいな”をカタチにする」をブランドスローガンに掲げ、毎期、お客様に新しい価値を提供する新製品に関して業界内では類を見ない発売数を誇っております。また、各製品のコンセプトを明確にし、お客様に製品の特徴を容易に理解いただくため、わかりやすいマーケティングを実践しているのも当社の大きな特徴です。これらの施策を継続、徹底することにより業績拡大、企業価値向上が実現できるものと考えております。

当社は企業価値の最大化を実現するためには株主価値を高めることが課題であると認識し、このため迅速かつ正確な情報開示と、経営の透明性の向上に努めるため、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでまいりました。具体的には、社長および執行役員が経営の執行にあたる一方で、会長を議長とする取締役会が経営の監督機能を担うという体制を整備し、さらには社外取締役と社外監査役を選任することで監督機能を強化しております。

また、当社グループでは、経営陣に対して現場の生の声を直接伝える場を積極的に設ける等、誰に対しても意見が言える非常に風通しの良い社風を持ち合わせております。この社風を維持、発展させることも有効なコーポレート・ガバナンスの手段であると考えております。

当社は、上記のような企業価値向上に向けたさまざまな取組みが株主の皆様をはじめ全てのステークホルダーの皆様の利益に繋がるものと確信しております。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み（本プランの内容）の概要

a. 対象となる大規模買付行為

大規模買付行為とは、次の(a)または(b)に該当する買付行為を指します。

(a)当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付け等

(b)当社が発行者である株券等について、公開買付けにかかる株券等の株券等所有割合およびその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付け

b. 本プランに定める手続き

(a)大規模買付者に対する情報提供の要求

大規模買付者には、取締役会が友好的な買付け等であると認めた場合を除き、まず、代表取締役宛に、大規模買付者の名称、住所、設立準拠法、代表者の氏名、国内連絡先および提案する大規模買付行為の概要を明示した、本プランに従う旨の「意向表明書」を当社所定の書式により提出していただきます。

次に、取締役会は、意向表明書受領後10営業日以内に、大規模買付者に対し、株主の皆様の判断および取締役会としての意見形成のために必要な情報（以下「本必要情報」といいます。）のリストを交付し、本必要情報の提供を求めます。提供していただいた情報を精査した結果、本必要情報として不十分であると判断した場合には、取締役会は、大規模買付者に対して本必要情報が揃うまで追加的に情報提供を求めます。

本必要情報の具体的内容は、大規模買付者の属性、大規模買付行為の目的および内容によって異なります。なお、取締役会は、意向表明書が提出された事実および取締役会に提供された本必要情報のうち、株主の皆様の判断のために必要であると認められる事項を、取締役会が適切と判断する時点で、その全部または一部を開示します。

(b) 独立委員会の設置

当社は、本プランを適正に運用し、取締役会または取締役によって恣意的な判断がなされることを防止するため、「独立委員会規則」に従い、独立委員会を設置します。独立委員会の委員は3名以上とし、公正で中立的な判断を可能とするため、当社の業務執行を行う経営陣から独立している当社社外取締役、当社社外監査役、および社外有識者のなかから選任します。

取締役会は、大規模買付者より本必要情報の提出を受けたときは、これを遅滞なく独立委員会に送付します。

本プランにおいては、下記 c.(a)のとおり、大規模買付者が本プランに定める手続きを遵守した場合には、原則として大規模買付行為に対する対抗措置を発動せず、下記 c.(b)のとおり、大規模買付者が本プランに定める手続きを遵守しなかった場合には、対抗措置を発動する可能性がある、という形で対抗措置発動に係る客観的な要件を設定しておりますが、下記 c.(a)に記載のとおり例外的対応をとる場合、ならびに下記 c.(b)に記載のとおり対抗措置を発動する場合には、取締役会は、取締役会の判断の合理性を担保するため、独立委員会に諮問することとします。

独立委員会は、「独立委員会規則」に定められた手続きに従い、大規模買付者の買付内容につき評価、検討し、取締役会に対する勧告を行います。取締役会はその勧告を最大限尊重し、上記対抗措置の発動または不発動等に関する決議を速やかに行うものとします。取締役会は、かかる決議を行った場合、速やかに情報開示を行うものとします。

(c) 取締役会による評価期間

大規模買付者が取締役会に対し本必要情報の提供を完了した後、取締役会は、取締役会による評価・検討、大規模買付者との交渉、大規模買付行為に対する意見形成、代替案立案のための期間（以下「評価期間」といいます。）として、当該買付の内容に応じて下記 または の期間を設定します。大規模買付行為は、大規模買付者が取締役会に対して本必要情報の提供を完了し、評価期間が経過し、取締役会が必要と判断した場合には、(d)の株主意思確認手続を経た後にのみ開始されるものとします。

対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる株式の買付の場合は60日間

その他の買付の場合は90日間

ただし、取締役会は、上記 または の評価期間の延長が必要と判断した場合は、独立委員会に諮問し、その勧告を最大限尊重した上で必要に応じて評価期間を最大30日間延長できるものとします。

評価期間中、取締役会は、独立委員会に諮問し、また、必要に応じて外部専門家等の助言を受けながら、提供された本必要情報を十分に評価、検討します。また、取締役会は必要に応じ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上の観点から、大規模買付者との間で条件改善について交渉を行うこと、あるいは、株主の皆様に対し代替案を提示することもあります。

なお、取締役会は、本必要情報の提供が完了した場合には、適切な時点でその旨および評価期間が満了する日を公表いたします。また、独立委員会の勧告を受け、評価期間を延長する場合には、延長期間とその理由を適切な時点で開示します。

(d) 株主意思確認手続

取締役会は、大規模買付行為に対する対抗措置を発動するにあたり、株主の皆様のご意思を尊重する趣旨から、独立委員会の勧告を受けたうえで、大規模買付行為に対し、対抗措置発動の可否またはその条件について株主の皆様判断していただくこともできるものとします。

株主の皆様の意思の確認は、会社法上の株主総会またはそれに類する手続（以下「株主意思確認手続」といいます。）による決議によるものとします。取締役会は、株主意思確認手続を開催する場合には、株主意思確認手続の決議の結果に従い、大規模買付行為の提案に対し、対抗措置を発動しまたは発動しないことといたします。

c. 大規模買付行為がなされた場合の対応策

(a) 大規模買付者が本プランに定める手続きを遵守した場合

大規模買付者が本プランに定める手続きを遵守した場合には、取締役会は、当該買付提案についての反対意見の表明や、代替案を提示することにより、株主の皆様を説得するに留め、原則として大規模買付行為に対する対抗措置は発動しません。大規模買付者の買付提案に応じるか否かは、株主の皆様において、当該買付提案および取締役会が提示する当該買付提案に対する意見、代替案等をご考慮の上、ご判断いただくこととなります。

ただし、大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれのある場合で、かつ、対抗措置を発動することが相当であると取締役会または株主意思確認手続において判断したときに、取締役会は、新株予約権の無償割当てその他法令または当社定款が取締役会の権限として認める措置をとり、大規模買付行為に対抗するものとします。

具体的な対抗措置については、新株予約権の無償割当てなどその時点で相当と認められるものを選択することとなります。

なお、対抗措置を発動する際の判断の客観性および合理性を担保するため、取締役会は、大規模買付者の提供する本必要情報に基づいて、外部専門家等の助言を得ながら、大規模買付者および大規模買付行為の具体的内容や、大規模買付行為が株主の皆様の全体の利益に与える影響を検討し、独立委員会からの勧告および株主意思確認手続の結果を最大限尊重した上で判断します。

(b) 大規模買付者が本プランに定める手続きを遵守しない場合

大規模買付者により、本プランに定める手続きが遵守されなかった場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、取締役会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を守ることを目的として、新株予約権の無償割当て等の対抗措置を発動する場合があります。取締役会は、大規模買付者が本プランに定める手続きを遵守したか否か、対抗措置の発動の適否、発動する場合の対抗措置の内容について、外部専門家等の意見も参考にし、また独立委員会の勧告および株主意思確認手続の結果を最大限尊重し決定します。

具体的な対抗措置については、新株予約権の無償割当てなどその時点で相当と認められるものを選択することとなります。

(c) 対抗措置発動の中止・変更について

大規模買付者が大規模買付行為の撤回または変更を行う等、対抗措置を発動することが適切でないと取締役会が判断した場合には、取締役会は独立委員会の勧告を最大限尊重した上で、対抗措置発動を中止または変更することができるものとします。このような対抗措置発動の中止または変更を行う場合は、取締役会は、独立委員会が必要と認める事項とともに速やかに情報開示を行うものとします。

d. 買収防衛策の非継続について（ご参考）

本プランの有効期間は平成31年3月28日に開催される第101期定時株主総会の終結の時までとなっております。当社は平成30年9月27日開催の取締役会において、本プランの非継続を決議いたしました。詳細につきましては、当社ホームページ平成30年9月27日付「当社株式の大規模買付行為への対応策（買収防衛策）の非継続について」をご参照ください。

（当社ウェブサイト https://www.kobayashi.co.jp/corporate/news/2018/180927_01/index.html）

取締役会の判断およびその判断に係る理由

本プランは、以下の理由から、上記の基本方針に沿うものであり、株主共同の利益を損なうものではなく、また当社役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

a. 買収防衛策に関する指針の要件等を完全に充足していること

本プランは、経済産業省および法務省が平成17年5月27日に発表した「企業価値・株主共同の利益の確保または向上のための買収防衛策に関する指針」の定める三原則（企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則、事前開示・株主意思の原則、必要性・相当性の原則）を完全に充足しています。

b. 株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されること

本プランは、大規模買付行為がなされた際に、大規模買付行為に応じるべきか否かを株主の皆様が判断し、あるいは取締役会が代替案を提示するために必要な情報や時間を確保したり、株主の皆様のために大規模買付者と交渉を行うこと等を可能とすることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保・向上させるという目的をもって導入されるものです。

c. 株主意思を重視するものであること（株主総会決議とサンセット条項）

取締役の任期は1年となっていますので、たとえ本プランの有効期間中であっても、取締役の選任を通じて株主の皆様のご意向を示していただくことが可能です。さらに、対抗措置の発動にあたっては、株主意思の確認が行われる場合もありますし、本プランの有効期間の満了前であっても、株主総会において、本プランを廃止する旨の決議がなされた場合には、本プランはその時点で廃止されることになっております。その意味で、本プランの消長には、株主の皆様のご意思が反映されることとなっております。

d. 合理的な客観的要件の設定

本プランは、大規模買付者による買付提案に応じるか否かが、最終的には株主の皆様が判断に委ねられるべきであることを原則としており、合理的かつ詳細な客観的要件が充足されなければ対抗措置が発動されないように設定されております。このように、本プランは取締役会による恣意的な対抗措置の発動を防止するための仕組みを確保しているものといえます。

e. 独立性の高い社外者の判断の重視と情報開示

当社は、本プランの導入にあたり、取締役会または取締役の恣意的判断を排除し、株主の皆様のために、対抗措置の発動および本プランの廃止等の運用に際しての実質的な判断を客観的に行う機関として独立委員会を設置します。実際に当社に対して大規模買付行為がなされた場合には、独立委員会が、「独立委員会規則」に従い、大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれがあるか否か等を評価、検討し、取締役会に対して勧告を行い、取締役会はその勧告を最大限尊重して決議を行うこととします。このように、独立委員会によって、取締役会の恣意的行動を厳しく監視するとともに、その判断の概要については株主の皆様が情報開示をすることとされており、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資する範囲で本プランの透明な運営が行われる仕組みが確保されています。

f. デッドハンド型やスローハンド型買収防衛策ではないこと

本プランは、株主総会で選任された取締役で構成される取締役会によりいつでも廃止することができるものとされており、大規模買付者が、自己の指名する取締役を株主総会で選任し、かかる取締役で構成される取締役会により、本プランを廃止することが可能です。

従って、本プランは、デッドハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の過半数を交替させてもなお、発動を阻止できない買収防衛策）ではありません。また、当社は期差任期制を採用していないため、本プランはスローハンド型買収防衛策（取締役会の構成員の交替を一度に行うことができないため、その発動を阻止するのに時間を要する買収防衛策）でもありません。

なお、本プランの詳細につきましては、当社ウェブサイトに掲載の平成28年5月20日付「当社株式の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）の継続について」をご参照ください。

(https://www.kobayashi.co.jp/corporate/news/2016/pdf/160520_01.pdf)

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 競争の激しい環境

当社グループの主要製品は、一般消費者向けの製品であるため、顧客ニーズを満たす新製品やサービスの開発による他社との差別化を目指しております。しかしながら、他社からも競合品が発売されるとともに、厳しい価格競争にさらされております。そのため、今後、新製品の開発費用や需要喚起のための広告宣伝、販売促進費用が増加する可能性があります。これらの要因が当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(2) 新製品の販売状況による影響

当社グループでは成長戦略として積極的な新製品開発を進めており、毎期春と秋に新製品を発売しております。この新製品の開発及び投入時期が競合他社より遅れた場合や競合品の販売状況等が自社新製品の販売に影響し、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 提携・合併の効果が当初の見込み通りいかない場合のリスク

当社グループでは、M & A や業務提携による品揃え強化と併せて広く国内外に市場を求めて展開地域の拡大を図っております。これらM & A や業務提携については、不確実な要素を含んでおり、事後的に発生した想定外の事象や環境変化によって、当初意図した成果が得られない場合や、事業戦略の変更を行わざるを得なくなる場合等があり、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 法的規制等

当社グループの製品の中には、医薬品、医薬部外品、化粧品等があり、開発や販売において医薬品医療機器法等関連法規の規制を受けた場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 品質のリスク

当社グループの製品の中には、医薬品、医薬部外品、化粧品、食品等があり、品質不良等により消費者、患者に健康被害を与えるようなことが生じた場合には多大な損害を被り、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 原材料価格の変動

当社グループの国内家庭用品製造販売事業、海外家庭用品製造販売事業、通信販売事業においては、原材料価格の変動リスクに直面しております。現在、継続的なコストダウンを図っておりますが、原油価格の急騰等により原材料価格が急騰した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 天候不順による影響

当社グループの製品の中には、カイロ・花粉症関連製品・風邪関連製品等販売における季節性が強いものがあり、気温・花粉の飛散状況等により販売に大きな影響を受ける可能性があります。これらの製品の販売状況が当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(8) 自然災害による影響

当社グループは全国各地に製造拠点がおり、これらの製造拠点が所在する地域で地震や大規模な台風等の自然災害が発生した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(9) 海外事業のリスク

製品や原材料などの貿易取引については為替相場の変動による影響を受けますが、為替予約取引等により為替変動リスクをヘッジすることにしており、業績に与える影響を軽減しております。また、投機的なデリバティブ取引は行っておりません。しかしながら、在外連結子会社の売上、費用、資産及び負債を含む現地通貨建ての項目は、連結財務諸表の作成のために円換算いたしますが、換算時の為替レートが大幅に変動した場合、円換算後の数値が大幅に変動します。

また、外国政府による規制や経済環境の変化等のリスクがあります。これらの要因が当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(10) 情報管理・システムリスク

当社グループでは、通信販売事業を中心に個人情報を含め多くの情報を保有しているため、社内管理体制を整備し、社内教育の徹底、情報管理の充実を図っておりますが、万一情報漏洩が発生した場合には、信用失墜により、当社グループの経営成績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 知的財産に関連するリスク

当社グループのブランド及び関連する商標権等の知的財産権に関して第三者による侵害が生じた場合には、多大な損害を被るリスクがあります。また、当社グループが認識の範囲外で第三者の知的財産権を侵害し、トラブルに発展する可能性もあります。このような場合、当社グループの経営成績や財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 株価の変動

当社グループ所有の投資有価証券はその多くが上場株式であるため、株価変動のリスクがあります。各期末日の市場価格により、有価証券に係る評価差益の減少や損失が発生した場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものです。

（１）重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たり採用した会計方針及びその適用方法並びに見積りの評価については、「第5 経理の状況 1. 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載しているため省略しております。

（２）経営成績

当連結会計年度のわが国の経済は、政府による景気対策の継続などにより企業収益や雇用の改善など回復基調が見られ、個人消費についても緩やかな回復基調が見られます。

そうした状況のなか、当社グループは「“あったらいいな”をカタチにする」をブランドスローガンに、お客様のニーズを満たす新製品の発売や、既存製品の育成、今後の成長事業への投資に努めてまいりました。

その結果、売上高は167,479百万円（前連結会計年度比6.8%増）、営業利益は26,289百万円（同14.7%増）、経常利益は27,374百万円（同13.2%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は18,023百万円（同13.6%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりです。

国内家庭用品製造販売事業

当事業では、より効果感の高いEX処方黒ずんだひじ・ひざのザラザラ治療薬「クロキュアEX」や、毛穴が目立つポツポツ肌治療薬「ケアノキュア」、上品フェミニンな香りデザインインテリアフレグランス「Sawaday PINKPINK STICK」、きらめくクリスタルボトルと最上級の香水調の香りの水洗トイレ用芳香洗浄剤「ブルーレット Premium PERFUME」、コスメチックのような華やかな香りの芳香消臭剤「お部屋の消臭元 プリンセスパルファム」など春に10品、秋に15品の新製品を発売し、売上に貢献しました。

既存品においては、ヘルスケアでは肥満改善薬「ナイシトール」、蓄膿症・鼻づまりを改善する内服薬「チクナイン」、歯槽膿漏予防ハミガキ「生葉」、舌下錠タイプのいぼ痔治療薬「ヘモリンド」など、日用品ではクルマ用芳香剤「Sawaday クルマ専用クリップ パルファム」や鼻呼吸を促すテープ「ナイトミン 鼻呼吸テープ」など、スキンケアではニキビ・肌あれ予防の薬用ローション「オードムーゲ」などが好調に推移しました。

その結果、売上高は137,156百万円（前連結会計年度比5.6%増）、セグメント利益（経常利益）は24,006百万円（同15.2%増）となりました。営業利益は24,246百万円（同13.7%増）となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は前連結会計年度では6,342百万円、当連結会計年度では6,777百万円となっております。

（外部顧客への売上高の内訳）

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成29年12月期）	当連結会計年度 （平成30年12月期）	増減	
			金額	増減率（％）
ヘルスケア	58,127	61,546	3,417	5.9
日用品	52,352	55,250	2,897	5.5
スキンケア	6,047	6,590	542	9.0
カイロ	6,965	6,989	24	0.3
合計	123,494	130,379	6,882	5.6

海外家庭用品製造販売事業

当事業では、米国・中国・東南アジアを中心に、カイロや額用冷却シート「熱さまシート」、外用消炎鎮痛剤「アンメルツ」などを販売しており、広告や販売促進など積極的に投資することで売上拡大に努めました。

その結果、売上高は26,641百万円（前連結会計年度比16.8%増）、セグメント利益（経常利益）は1,028百万円（同24.0%増）となりました。営業利益は1,104百万円（同18.1%増）となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は前連結会計年度では1,044百万円、当連結会計年度では994百万円となっております。

(外部顧客への売上高の内訳)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月期)	当連結会計年度 (平成30年12月期)	増減	
			金額	増減率(%)
米国	8,553	9,824	1,271	14.9
中国	6,785	8,994	2,209	32.6
東南アジア	3,650	4,018	367	10.1
その他	2,778	2,809	30	1.1
合計	21,767	25,646	3,878	17.8

当連結会計年度より、集計方法を売上元の所在地別から売上先の所在地別へ変更いたしました。前連結会計年度についても、当連結会計年度と同様に組替え比較を行っております。

通信販売事業

当事業では、栄養補助食品、スキンケア製品等の通信販売を行っており、広告やダイレクトメールを中心とした販売促進による、新規顧客の開拓と既存顧客への購入促進に努めました。

その結果、売上高は10,245百万円(前連結会計年度比0.6%増)、セグメント利益(経常利益)は148百万円(前連結会計年度はセグメント損失72百万円)となりました。営業利益は143百万円(前連結会計年度は営業損失75百万円)となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高または振替高を含んでおりません。

その他事業

当事業には、運送業、合成樹脂容器の製造販売、保険代理業、不動産管理、広告企画制作等を含んでおり、各社は独立採算で経営し、資材やサービス提供についてその納入価格の見直しを適宜行いました。

その結果、売上高6,669百万円(前連結会計年度比1.6%増)、セグメント利益(経常利益)は2,652百万円(同12.4%減)となりました。営業利益は642百万円(同15.2%減)となりました。

売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおり、その金額は前連結会計年度では5,242百万円、当連結会計年度では5,461百万円となっております。

(3) 経営上の目標の達成状況について

当社グループは、平成28年11月に発表しました中期経営計画の業績目標にも掲げましたとおり、売上高、営業利益、親会社株主に帰属する当期純利益、ROEを重要な経営指標としており、その進捗状況については以下のとおりであります。

	平成30年12月期 実績	平成31年12月期 目標値
売上高	1,674億円	1,650億円
営業利益	262億円	230億円
親会社株主に帰属する 当期純利益	180億円	170億円
ROE	11.3%	10.0%

中期経営計画の目標値は前倒しで達成しております。今後も企業価値を高め、より一層株主価値向上に努めてまいります。

(4) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：百万円)

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	前年同期比(%)
国内家庭用品製造販売事業	133,914	102.3
海外家庭用品製造販売事業	26,259	121.4
通信販売事業	9,955	95.5
報告セグメント計	170,129	104.4
その他	3,517	105.1
合計	173,646	104.4

- (注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

受注実績

当社及び連結子会社は見込み生産を行っているため、該当事項はありません。

販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

(単位：百万円)

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	前年同期比(%)
国内家庭用品製造販売事業	137,156	105.6
海外家庭用品製造販売事業	26,641	116.8
通信販売事業	10,245	100.6
報告セグメント計	174,043	106.9
その他	6,669	101.6
セグメント間の内部売上高又は振替高	13,233	104.8
合計	167,479	106.8

- (注) 1. 最近2連結会計年度における主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)		当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
株式会社PALTAC	70,409	44.9	77,592	46.3
株式会社あらた	17,208	11.0	17,290	10.3

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(5) 資本の財源及び資金の流動性

財政状態

当連結会計年度の財政状態は以下のとおりです。

総資産は、前連結会計年度末に比べ12,158百万円増加し、230,989百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加(9,466百万円)、受取手形及び売掛金の増加(3,354百万円)、投資有価証券の減少(880百万円)等によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ279百万円減少し、64,740百万円となりました。主な要因は、退職給付に係る負債の減少(748百万円)、支払手形及び買掛金の増加(427百万円)等によるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ12,437百万円増加し、166,249百万円となり、自己資本比率は72.0%となりました。主な要因は、利益剰余金の増加(13,099百万円)、為替換算調整勘定の減少(722百万円)等によるものです。

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月期)	当連結会計年度 (平成30年12月期)	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,350	20,007	2,343
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,039	8,062	15,102
フリー・キャッシュ・フロー	29,390	11,944	17,445
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,162	4,285	4,877
現金及び現金同等物期末残高	48,688	55,916	7,228

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は20,007百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益が25,304百万円、減価償却費が2,964百万円、退職給付に係る負債の減少額が797百万円、売上債権の増加額が3,367百万円、たな卸資産の増加額が493百万円、仕入債務の増加額が481百万円、未払金の増加額が320百万円、利息及び配当金の受取額が745百万円、法人税等の支払額が7,953百万円あったためです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は8,062百万円となりました。これは主に、定期預金の預入による支出が55,084百万円、定期預金の払戻による収入が52,832百万円、有形固定資産の取得による支出が3,419百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出が2,461百万円あったためです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は4,285百万円となりました。これは主に、自己株式の処分による収入が361百万円、配当金の支払額が4,818百万円あったためです。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度より7,228百万円増加し55,916百万円となりました。

(注)フリー・キャッシュ・フローは、以下の計算式を使っております。

$$\text{フリー・キャッシュ・フロー} = \text{営業活動によるキャッシュ・フロー} + \text{投資活動によるキャッシュ・フロー}$$

資金需要

当社グループにおきましては、原材料等の仕入れ、研究開発費及び販売費などの運転資金のほか、競争力強化と事業の拡充・発展を目的とした研究開発投資、設備投資、製品導入等に主たる資金需要が生じます。これらの資金需要に対しましては、営業活動によるキャッシュ・フローの創出による調達を基本としております。

(参考) キャッシュ・フロー関連指標

	前連結会計年度 (平成29年12月期)	当連結会計年度 (平成30年12月期)
自己資本比率(%)	70.3	72.0
時価ベースの 自己資本比率(%)	264.1	255.7
キャッシュ・フロー 対有利子負債比率(年)	0.0	0.0
インタレスト・ カバレッジ・レシオ(倍)	801.7	753.8

(注) 自己資本比率：自己資本 / 総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額 / 総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債 / 営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー / 利払い

各指標はいずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

株式時価総額は期末株価終値 × 期末発行済株式数（自己株式数を除く）により算出しております。

営業キャッシュ・フローは連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しております。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。また、利払いについては連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

4【経営上の重要な契約等】

平成27年9月30日付でパードインターナショナル インクとの合弁解消の契約を締結し、平成27年11月2日付で同社との合弁関係を友好的に解消するとともに同日付で当社が保有する株式会社メディコン株式（発行済株式総数の50%）全てを株式会社メディコンに譲渡いたしました。

なお、合弁解消後に関する合意事項を遵守する対価として、平成31年12月期以降に以下の金額を受領し、営業外収益に計上する予定です。

平成31年12月期	1,000百万円
平成32年12月期	600百万円
平成33年12月期	600百万円
平成34年12月期	400百万円
平成35年12月期	400百万円
平成36年12月期	300百万円
平成37年12月期	300百万円

5【研究開発活動】

当社グループは「“あったらいいな”をカタチにする」をブランドスローガンに、お客様の潜在的ニーズを掘り起こし、今までにない付加価値のある新製品を提供することで、お客様の生活を豊かにしていくことが使命と考えております。

当連結会計年度のグループ全体の研究開発費は7,031百万円であり、研究開発活動ならびに研究開発費は次のとおりであります。

国内家庭用品製造販売事業

当事業では、お客様が健康で快適な生活を送るために役立つ製品を提供すべく、ヘルスケア、日用品、スキンケア、カイロの4つのカテゴリーを研究開発対象として積極的な研究開発活動を行っております。

そして当社では、新製品寄与率（全売上高に占める新製品の割合）を10%以上とすることを目標としており、当連結会計年度は25品目の新製品を発売し、新製品寄与率は5.2%となりました。

主なカテゴリーの研究開発活動の成果は次のとおりであります。

ヘルスケア

黒ずんできた毛穴周りの炎症を鎮める「ケアノキュア」、かぶれ治療薬「カブナース」、青アザを伴う内出血を治療する医薬品「アットノン アオキュア」、足がつる時などの筋肉の痛み素早く浸透する外用薬「コムレケアヨコヨコ」など8品目を開発いたしました。

日用品

トイレの水ぎわを洗浄防汚するジェルを、片手で簡単に貼れる簡易式スタンプトイレクリーナー「ブルーレットかんたんスタンプー」や、本物の炭でしっかり消臭しながら上質な香りを楽しむ室内芳香消臭剤「炭の消臭元」、いつでもどこでも香りで息をケアできるお口の香水カプセル「プレスパルファム はじけるカプセル」など16品目を開発いたしました。

スキンケア

肌が乾燥すると紫外線の影響を受けやすくシミにつながりやすいことに着目し、高保湿にこだわった冬のシミ対策を提案する化粧水「ケシミン浸透化粧水 とてもしっとり」の1品目を開発いたしました。

結果、当事業に係る研究開発費は6,411百万円となりました。

海外家庭用品製造販売事業

当事業では、海外のお客様が健康で快適な生活を送るために役立つ製品を提供すべく研究開発活動を行っており、当事業に係る研究開発費は434百万円となりました。

通信販売事業

当事業では、栄養補助食品、スキンケア製品を主な研究対象として、積極的な研究開発活動を行っており、当事業に係る研究開発費は185百万円となりました。

その他事業

当事業では、研究開発活動は行っておりません。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、各事業における高い成長性の維持、あるいは各業界における競争性の強化に必要な投資を実施いたしました。

当連結会計年度の当社グループの設備投資（無形固定資産及び長期前払費用への投資も含まれます）は6,415百万円であり、各セグメントの設備投資については下記のとおりであります。

国内家庭用品製造販売事業

当事業では、主に新製品開発の強化、生産能力の向上と合理化のための投資を行いました。
結果、設備投資金額は2,882百万円となりました。

海外家庭用品製造販売事業

当事業では、主に一般用医薬品ビジネスの展開・拡大のための投資を行いました。
結果、設備投資金額は2,468百万円となりました。

通信販売事業

当事業では、通信販売事業の拡大に備え、ソフトウェアなどの投資を行いました。
結果、設備投資金額は39百万円となりました。

その他事業

当事業では、事業拡大などに備え有形固定資産などを取得いたしました。
結果、設備投資金額は687百万円となりました。

全社

全社資産として、ソフトウェア等の投資を行いました。
結果、設備投資金額は336百万円となりました。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (名) 外(臨時 従業員)
			建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
大阪工場 (大阪市淀川区)	国内家庭用品 製造販売事業	製造設備 事務所設備	297	260	1 (2,552.06) <1,276.03>	1	303	864	169 (80)
本社等 (大阪市中央区)	国内家庭用品 製造販売事業 海外家庭用品 製造販売事業 通信販売事業 その他事業	事務所設備	173	20	-	2	195	392	453 (98)
製品営業所 (13ヶ所) 4	国内家庭用品 製造販売事業	事務所設備	80	2	3 (989.48)	502	32	621	339 (3)
研究所 (大阪府茨木市)	国内家庭用品 製造販売事業 通信販売事業	研究設備	1,181	20	430 (5,333.29)	1	201	1,835	385 (11)
貸与資産 (富山県富山市) 5	国内家庭用品 製造販売事業	製造設備 事務所設備	367	3	334 (50,297.80)	-	0	706	-
貸与資産 (宮城県黒川郡 大和町) 6	国内家庭用品 製造販売事業	製造設備 事務所設備	999	3	1,272 (103,631.00)	-	1	2,277	-
貸与資産 (9ヶ所) 7	その他事業	投資不動産	200	0	2,069 (6,859.84)	-	0	2,271	-

(注) 1. 上記の金額は、平成30年12月末の帳簿価額であり、建設仮勘定は含んでおりません。

2. 上記中<>書きは賃借中のものであり、外数であります。

3. その他の有形固定資産は、工具、器具及び備品であります。

4. 札幌市中央区、仙台市青葉区、新潟市中央区、東京都江東区、横浜市神奈川区、さいたま市北区、石川県金沢市、静岡市駿河区、名古屋市西区、大阪府茨木市、広島市東区、香川県高松市、福岡市博多区にあります。

5. 貸与資産(富山県富山市)の製造設備及び事務所設備は、連結子会社である富山小林製薬(株)に賃貸しております。

6. 貸与資産(宮城県黒川郡大和町)の製造設備及び事務所設備は、連結子会社である仙台小林製薬(株)に賃貸しております。

7. 札幌市中央区、茨城県水戸市、さいたま市見沼区、東京都葛飾区、横浜市神奈川区、大阪府茨木市、大阪市中央区2ヶ所、神戸市中央区にあります。

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (名) 外(臨時 従業員)	
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	投資不動産 (百万円) (面積㎡)	その他 (百万円)		合計 (百万円)
富山小林製薬(株)	本社、工場 (富山県富山市)	国内家庭用品製造販売事業	製造設備 事務所設備	922	1,036	-	1	-	137	2,097	294 (112)
仙台小林製薬(株)	本社、工場 (宮城県黒川郡大和町)	国内家庭用品製造販売事業	製造設備 事務所設備	315	649	-	-	-	96	1,061	207 (80)
愛媛小林製薬(株)	本社、工場 (愛媛県新居浜市)	国内家庭用品製造販売事業	製造設備 事務所設備	607	440	560 (38,775.00)	0	-	34	1,642	122 (24)
小林製薬ブラックス(株)	本社、工場 (富山県富山市)	その他事業	製造設備 事務所設備	761	394	117 (20,155.05)	-	2	35	1,311	51 (27)
桐灰化学(株)	本社 (大阪市淀川区)	国内家庭用品製造販売事業	事務所設備	88	0	0 <1,451.23>	3	36	7	136	91 (4)
桐灰小林製薬(株)	本社、工場 (兵庫県三田市)	国内家庭用品製造販売事業	製造設備 事務所設備	232	302	505 (13,737.76)	0	-	14	1,055	74 (23)
	藤岡工場 (群馬県藤岡市)	国内家庭用品製造販売事業	製造設備 事務所設備	141	139	170 (8,574.8)	-	-	4	456	22 (9)
小林製薬ライフサービス(株)	賃貸マンション (大阪市西区)	その他事業	賃貸マンション	-	-	-	-	458 (650.17)	-	458	-
	賃貸介護施設 (兵庫県宝塚市)	その他事業	賃貸介護施設	-	-	-	-	154 (955.85)	-	154	-
小林製薬物流(株)	大東センター (大阪府大東市)	その他事業	物流設備 事務所設備	25	6	- <4,407.77>	-	-	4	36	6 (17)

- (注) 1. 上記の金額は、平成30年12月末の帳簿価額であり、建設仮勘定は含んでおりません。
 2. 上記中<>書きは賃借中のものであり、外数であります。
 3. その他の有形固定資産は、工具、器具及び備品であります。

(3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (名) 外(臨時 従業員)	
				建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	投資不動産 (百万円)	その他 (百万円)		合計 (百万円)
合肥小林 日用品有 限公司	本社 (中国)	海外家庭用 品製造販売 事業	製造設備 事務所設備	722	491	- <20,009.00>	-	-	136	1,350	431 (-)
合肥小林 菓業有限 公司	本社 (中国)	国内家庭用 品製造販売 事業	製造設備 事務所設備	292	158	- <9,333.30>	-	-	19	470	51 (-)
江蘇小林 製菓有限 公司	本社 (中国)	海外家庭用 品製造販売 事業	製造設備 事務所設備	103	33	- <19,881.18>	-	-	16	153	42 (-)
Kobayas hi America Manufac turing, LLC	本社 (米国)	海外家庭用 品製造販売 事業	製造設備 事務所設備	690	289	46 (24,181.94)	-	-	19	1,045	102 (-)

- (注) 1. 上記の金額は、平成30年12月末の帳簿価額であり、建設仮勘定は含んでおりません。
 2. 上記中<>書きは貸借中のものであり、外数であります。
 3. その他の有形固定資産は、工具、器具及び備品であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

- (1) 重要な設備の新設、改修等
 該当する事項はありません。
- (2) 重要な設備の除却、売却等
 該当する事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	340,200,000
計	340,200,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成30年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成31年3月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	82,050,000	82,050,000	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	82,050,000	82,050,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成28年7月1日 (注)1	42,525,000	85,050,000	-	3,450,000	-	4,183,793
平成29年2月17日 (注)2	3,000,000	82,050,000	-	3,450,000	-	4,183,793

(注)1. 株式分割(1:2)によるものであります。
 2. 自己株式の消却による減少であります。

(5) 【所有者別状況】

平成30年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	46	31	178	444	8	17,792	18,499	-
所有株式数(単元)	-	136,638	4,864	142,285	177,360	10	359,189	820,346	15,400
所有株式数の割合(%)	-	16.66	0.59	17.34	21.62	0.00	43.79	100	-

(注) 1. 自己株式2,977,337株は「個人その他」に29,773単元、「単元未満株式の状況」に37株含まれております。
2. 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が20単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成30年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
小林 章浩	神戸市東灘区	9,264	11.71
(公財)小林国際奨学財団	大阪市中央区道修町4-4-10	6,000	7.58
井植 由佳子	兵庫県芦屋市	5,167	6.53
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505223 (常任代理人(株)みずほ銀行決済営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都港区港南2-15-1)	4,944	6.25
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	2,815	3.56
渡部 育子	東京都千代田区	2,460	3.11
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	2,277	2.88
(有) 鵬	兵庫県宝塚市仁川北3-9-2	2,178	2.75
(株)フォーラム	大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビル3階	2,071	2.61
宮田 彰久	大阪市福島区	1,846	2.33
計	-	39,025	49.35

(注) 1. 当社は、自己株式を2,977千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. 平成30年5月8日付で公衆の縦覧に供されている変更報告書において、マサチューセッツ・ファイナンシャル・サービスズ・カンパニーが平成30年4月30日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として議決権行使基準日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の内容は次のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数(株)	株券等保有割合(%)
マサチューセッツ・ファイナンシャル・サービスズ・カンパニー	米国02199 マサチューセッツ州ボストン、ハンティントンアベニュー111	6,502,500	7.93

(7)【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成30年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,977,300	-	「1(1) 発行済株式」の「内容」欄に記載のとおりであります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 79,057,300	790,573	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 15,400	-	-
発行済株式総数	82,050,000	-	-
総株主の議決権	-	790,573	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。
 また、「議決権の数」には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権数20個が含まれております。

【自己株式等】

平成30年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 小林製薬(株)	大阪市中央区道修町4-4-10	2,977,300	-	2,977,300	3.62
計	-	2,977,300	-	2,977,300	3.62

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額 (円)
取締役会(平成31年1月31日)での決議状況 (取得期間 平成31年2月1日～平成31年8月31日)	1,300,000	8,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	-	-
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	196,600	1,642,998,000
提出日現在の未行使割合(%)	84.88	79.46

(注)1. 取得自己株式につきましては受渡基準で記載しております。

2. 「当期間における取得自己株式」には、平成31年3月1日からこの有価証券報告書提出日までに上記取締役会決議により取得した自己株式の株式数及びその価額の総額には含まれておらず、また、「提出日現在の未行使割合」は、当該自己株式の株式数及びその価額の総額を含まずに算出しております。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)	株式数(株)	処分価額の総額 (百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(注3)	125,600	496	-	-
保有自己株式数	2,977,337	-	3,173,937	-

(注)1. 当期間における処理自己株式数には、平成31年3月1日からこの有価証券報告書提出日までに処分した株式数及び処分価額の総額は含まれておりません。

2. 当期間における「保有自己株式数」には、平成31年3月1日からこの有価証券報告書提出日までの、平成31年1月31日付の取締役会決議に基づき取得した株式数及び単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

3. 当事業年度の内訳は、新株予約権の権利行使であります。

3【配当政策】

当社は、株主様への利益還元を重要な経営政策の一つと位置づけ、キャッシュ・フローの創出による企業価値の向上に努めています。そのために健全な経営体質の維持と高い成長が見込める事業への積極投資のために必要な内部留保を確保しながら、安定的な配当を基本に連結業績を反映した配当により、株主様への利益還元を向上させていく考えであります。

上記方針に基づき、配当については中間配当と期末配当の年2回行うこととしております。これらの決定機関は、中間配当、期末配当ともに取締役会であります。

上記方針と当期の業績を踏まえ、当期は1株当たり66円の配当（内1株当たり中間配当31円）を実施することを決定しました。この結果、当事業年度の配当性向（連結）は28.9%となりました。

内部留保資金につきましては、研究開発投資、生産設備投資など将来の事業展開に備え役立ててまいります。

なお、当社は「取締役会決議により、毎年6月30日を基準日として、中間配当を行うことができる」旨を定款に定めており、「会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行う」旨も定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成30年7月31日 取締役会決議	2,451	31
平成31年2月18日 取締役会決議	2,767	35

4【株価の推移】

(1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第97期	第98期	第99期	第100期	第101期
決算年月	平成27年3月	平成28年3月	平成28年12月	平成29年12月	平成30年12月
最高(円)	8,930	10,770	9,920 5,610	7,650	10,250
最低(円)	5,750	7,820	8,430 4,205	4,865	6,550

(注) 1. 最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

2. 第99期は、決算期変更により平成28年4月1日から平成28年12月31日までの9ヶ月間となっております。

3. 印は、株式分割（平成28年7月1日、1株 2株）による権利落後の最高・最低株価を示しております。

(2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成30年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	10,250	9,310	8,530	8,770	7,980	8,030
最低(円)	9,150	7,140	7,670	6,880	7,100	6,550

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所（市場第一部）におけるものであります。

5【役員の状況】

男性10名 女性2名 (役員のうち女性の比率16.67%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 会長		小林 一雅	昭和14年9月19日生	昭和37年3月 当社入社 昭和41年11月 取締役 昭和45年11月 常務取締役 昭和51年12月 代表取締役社長 平成13年7月 桐灰化学(株)代表取締役会長(現任) 平成16年6月 当社代表取締役会長(現任)	(注)3	224
代表取締役 副会長		小林 豊	昭和20年5月28日生	昭和43年3月 当社入社 昭和51年12月 取締役 海外事業部長 昭和57年12月 常務取締役 昭和60年12月 専務取締役 商事事業本部長 平成4年12月 取締役副社長 平成11年6月 代表取締役副社長 平成16年6月 代表取締役社長 平成25年6月 代表取締役副会長(現任)	(注)3	173
代表取締役社 長		小林 章浩	昭和46年5月13日生	平成10年3月 当社入社 平成13年6月 執行役員 製造カンパニープレジデント 平成16年6月 取締役 国際営業カンパニープレジデント 兼 マーケティング室長 平成19年6月 常務取締役 平成21年3月 専務取締役 製品事業統括本部長 平成25年6月 代表取締役社長(現任)	(注)3	9,264

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
専務取締役	グループ統括 本社本部長	山根 聡	昭和35年4月16日生	昭和58年3月 当社入社 平成16年3月 執行役員 取締役会室長 兼 成長戦略室 長 平成18年6月 取締役 グループ統括本社本部長(現 任) 平成23年6月 常務取締役 平成28年6月 専務取締役(現任)	(注)3	7
常務取締役	営業本部長	堀内 晋	昭和32年3月4日生	昭和54年3月 当社入社 平成18年3月 執行役員 営業統括部長 平成21年3月 常務執行役員 営業本部長(現任) 平成26年6月 取締役 平成28年6月 常務取締役(現任)	(注)3	5
取締役		辻 晴雄	昭和7年12月6日生	昭和30年3月 早川電気工業(株)(現シャープ 株)入社 昭和61年6月 同社取締役社長 平成20年6月 当社取締役(現任)	(注)3	-
取締役		伊藤 邦雄	昭和26年12月13日生	平成4年4月 一橋大学商学部教授 平成14年8月 同大学大学院商学研究科長・ 商学部長 平成16年12月 同大学副学長・理事 平成18年12月 同大学大学院商学研究科教授 平成19年6月 当社独立委員会委員 平成25年6月 当社取締役(現任) 平成27年1月 一橋大学CFO教育研究セン ター長(現任) 平成27年4月 同大学大学院商学研究科特任 教授 平成30年4月 同大学大学院経営管理研究科 特任教授(現任)	(注)3	-
取締役		佐々木 かをり	昭和34年5月12日生	昭和62年7月 ㈱ユニカルインターナシヨナ ル代表取締役社長(現任) 平成12年3月 ㈱イー・ウーマン代表取締役 社長(現任) 平成28年6月 当社取締役(現任)	(注)3	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役 (常勤)		後藤 寛	昭和32年2月24日生	昭和54年3月 当社入社 平成15年3月 広告販促部長 平成19年3月 広報部長 平成21年3月 総務部長 平成23年6月 監査役(現任)	(注)4	10
監査役 (常勤)		山脇 明敏	昭和34年7月31日生	昭和58年4月 サンスター㈱入社 平成15年7月 当社入社 平成20年3月 生産技術部長 平成21年3月 富山小林製薬㈱ 代表取締役社 長 平成23年3月 当社品質管理部長 平成26年3月 購買部長 平成28年3月 日用品技術開発部長 平成31年3月 監査役(現任)	(注)4	1
監査役		酒井 竜児	昭和32年8月7日生	昭和60年4月 弁護士登録(第一東京弁護士会) 長島・大野法律事務所(現長 島・大野・常松法律事務所)入 所 平成2年5月 米国ペンシルバニア大学 ロースクール法学修士(LL.M.) 平成2年9月 米国ウィルソン・ソンシーニ・ グッドリッチ&ロサージェイ法律 事務所勤務 平成7年1月 長島・大野法律事務所(現長 島・大野・常松法律事務所) パートナー弁護士(現任) 平成17年6月 当社監査役(現任)	(注)4	-
監査役		八田 陽子	昭和27年6月8日生	昭和63年8月 KPMG LLPニューヨーク 事務所入所 平成9年8月 KPMG LLPニューヨーク 事務所パートナー 平成14年9月 KPMG 税理士法人 パート ナー 平成20年6月 国際基督教大学 監事(現任) 平成27年6月 当社監査役(現任)	(注)4	-
計						9,687

- (注) 1. 取締役 辻 晴雄、伊藤 邦雄および佐々木 かをりは、社外取締役であります。
 2. 監査役 酒井 竜児および八田 陽子は、社外監査役であります。
 3. 平成31年3月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
 4. 平成31年3月28日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
 5. 代表取締役副会長 小林 豊は代表取締役会長 小林 一雅の実弟であります。また、代表取締役社長
 小林 章浩は代表取締役会長 小林 一雅の長男であります。

6. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項の規定に基づき、補欠の社外監査役1名を選任しております。補欠の社外監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
藤津 康彦	昭和47年5月25日生	平成6年10月 会計士補登録 平成11年4月 弁護士登録(東京第二弁護士会) 濱田松本法律事務所(現森・濱田松本法律事務所)入所 平成16年5月 米国カリフォルニア大学デービス校ロースクール法学修士(LL.M.) 平成16年9月 米国デベヴォイス・アンド・プリンプトン法律事務所勤務 平成20年1月 森・濱田松本法律事務所パートナー弁護士(現在) 平成20年6月 当社補欠監査役(現任)	-

7. 当社では、取締役会の一層の活性化を促し、取締役会の意思決定・業務執行の監督機能と各事業本部の業務執行機能を明確に区分し、経営効率の向上を図るために執行役員制度を導入しております。執行役員は、10名で、内3名は取締役兼務であります。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| ・執行役員 | 小林 章浩 (代表取締役社長兼務) |
| ・執行役員 グループ統括本社本部長 | 山根 聡 (専務取締役兼務) |
| ・執行役員 営業本部長 | 堀内 晋 (常務取締役兼務) |
| ・執行役員 信頼性保証本部長 | 難波 俊夫 |
| ・執行役員 製造本部長 | 西岡 哲志 |
| ・執行役員 国際事業部長 | 宮西 一仁 |
| ・執行役員 営業本部副本部長 兼 首都圏統括部長 | 綾部 直樹 |
| ・執行役員 ヘルスケア事業部長 | 大脇 藤人 |
| ・執行役員 日用品事業部長 | 松下 拓也 |
| ・執行役員 通販事業部長 | 尾川 由洋 |

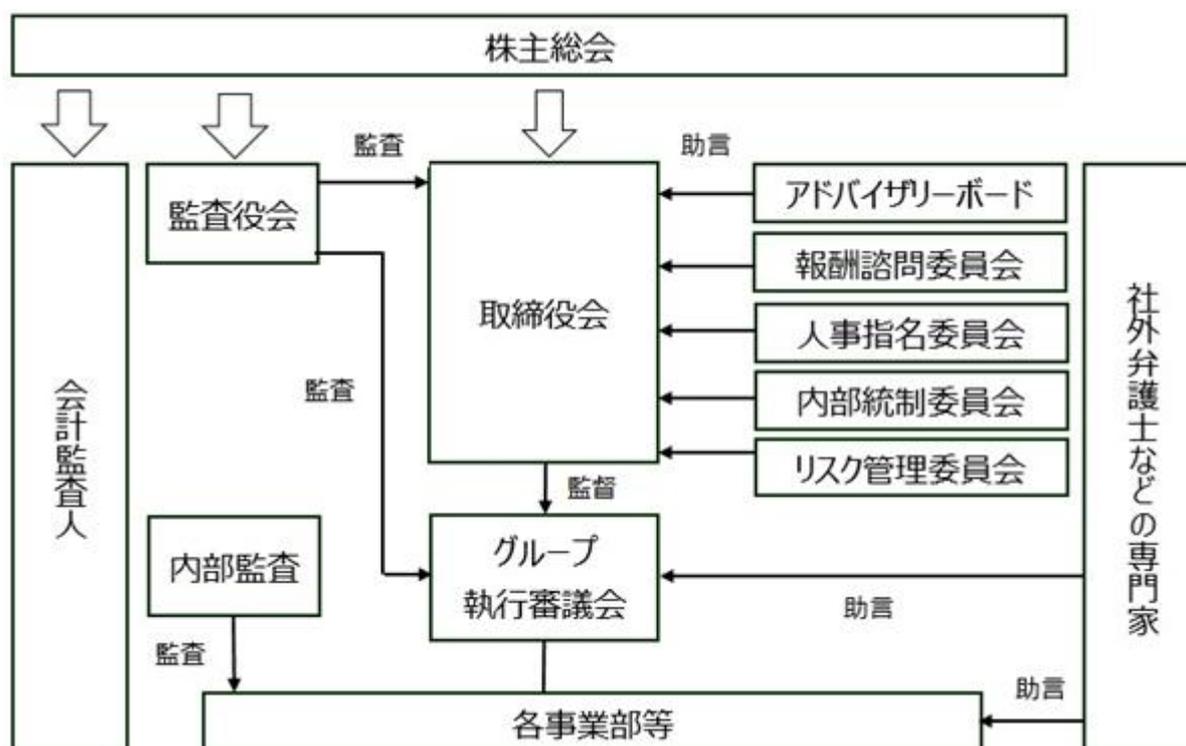
6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

・企業統治の体制の概要

当社は、コーポレート・ガバナンスの充実を経営の重要課題と捉えております。
 当社のコーポレート・ガバナンス体制の模式図は次のとおりです。



イ) グループ執行審議会

当社では、監督と執行の分離を明確にするため執行役員制度を導入しております。執行役員を主な構成員とするグループ執行審議会（通称「GOM・SSK」、以下「GOM・SSK」といいます）を月に4回開催しており、執行に関する重要な案件について審議しております。

ロ) 取締役会

社外取締役3名を含む8名の取締役で構成されており（社外監査役2名を含む4名の監査役も出席）、GOM・SSKで審議された内容等をチェックする機能を果たしております。また、取締役会の席上、社外取締役・社外監査役から活発な発言があり、外部視点による牽制が非常によく機能しております。

ハ) アドバイザリーボード

取締役会やGOM・SSKを補佐する機関として、半年に1回開催しております。

アドバイザリーボードは社外取締役並びに当社会長、副会長、社長及び担当役員を構成員としております。経営方針や経営の重要課題について、大所高所からの助言をいただき、日々の経営に反映しております。

ニ) 報酬諮問委員会

取締役の報酬額決定プロセスの透明性を確保するため、外部識者、社外取締役並びに当社副会長および担当役員を構成員としております。

ホ) 人事指名委員会

取締役及び執行役員選任プロセスの透明性、公正性を確保するため、外部識者、社外取締役並びに当社社長および担当役員を構成員としております。

ヘ) 内部統制委員会

内部統制主管役員と関係幹部を構成員とし、コンプライアンス問題及び内部統制管理体制構築に関する基本問題を中心に審議しております。また、当社および関係会社の内部統制に関する基本方針案の立案、構築された内部統制管理体制の監視も行っております。

ト) リスク管理委員会

小林製薬グループにおける経営リスクの顕在化を未然に防止、あるいは顕在化した場合の影響を極小化することを目的に主要役員を構成員としてリスク管理委員会を設置し、リスク管理体制の構築および推進を図っております。

・企業統治の体制を採用する理由

上記のとおり、当社の企業統治の体制として、経営の監督と執行を分離する仕組みを採っております。アドバイザリーボード、報酬諮問委員会等を設定する等、必要に応じて取締役会及びG O M・S S Kの機能を補佐しております。

また、当社は経営陣に対しても現場の生の声を直接伝える機会を積極的に設けるなど、誰に対しても意見が言える非常に風通しの良い社風を持ち合わせております。この社風を維持、発展させることも有効なコーポレート・ガバナンスの手段であると考えております。

・内部統制システムの整備の状況

当社では、毎年取締役会において、内部統制システムの基本方針について必要に応じて見直しを行っております。

この基本方針に従って、取締役会及び内部統制委員会において内部統制システムの具体的な整備・構築を進めております。

・リスク管理体制の整備の状況

経営リスクマネジメントに関する全般的事項を定めた「経営リスクマネジメント規程」を平成20年4月に制定し、この規程に基づき、様々な経営リスクへの適切な対応と経営リスクが顕在化した場合の影響の極小化を図っております。

会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人とは、業務運用上の改善に繋がる情報共有を行っております。加えて、企業経営および日常の業務に関しては、適宜弁護士などの専門家から経営判断上の参考とするためアドバイスを受けております。

また、企業活動における法令遵守精神の徹底、強化を図るため、平成15年9月に「コンプライアンス指針」（「企業行動の基本方針」、「役員及び従業員の行動基準」）を制定しました。そしてこのコンプライアンス指針を全社的に積極的に展開するなど、コンプライアンスの意識向上を図っております。さらに、平成24年12月に「グローバルコンプライアンスポリシー」と改めるとともに、5カ国語に翻訳して海外子会社に展開しました。

また、平成15年1月には国内従業員の窓口として「従業員相談室」を社内外に開設、平成25年5月に海外従業員対象の「内部通報窓口」を開設し、情報の早期収集・対応にも努めております。

・子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社グループは「関係会社管理規程」に基づき、指示・報告等の伝達を迅速かつ効率的に行うことにより業務の適正を確保しています。

内部監査部門は、当社グループ各社が業務を適正に遂行しているかどうかの監査を行い、その結果を当社の代表取締役との毎月の定例会議で報告しました。また、監査役および各業務執行部門長に適時報告しております。

当社から当社主要グループ各社には、それぞれ1名以上の取締役または監査役を派遣しており、当社グループ各社の健全性を確保しております。

当社グループ各社の取締役は、必要な体制を整備して財務報告の適正性を確認・維持しています。

当社は大阪府の企業防衛連合協議会や暴力追放推進センターに参加し、警察との連携強化、反社会的勢力に関する情報収集を図っており、当社グループ全体が反社会的勢力および団体と一切の関係を持たず、毅然とした態度で対応しております。また、当社グループの取締役および使用人に対してはコンプライアンス e-ラーニング等により反社会的勢力排除に向けた啓発活動を実施しております。

内部監査及び監査役監査の状況

監査役は、内部監査を専門とする内部監査室（構成員：4名）と連携し、効率的な監査を行っております。

常勤監査役は、経営リスクの早期発見のため、当社の主要会議体への出席、必要な記録へのアクセス、事業部門へのヒアリング等を実施し、経営の監視を行っております。

なお、社外監査役である酒井竜児氏はコーポレート・ガバナンスに関する相当の知見を有しており、八田陽子氏は国際税務・会計に関する豊富な専門知識を有しており、それぞれの知見を活かした監査を行っております。

内部監査室は、内部統制・リスク管理体制の遵守・整備状況を定期的に確認するとともに、新たな課題が発見された場合、具体的な解決策の策定を担当部門に指示、その後の進捗管理を行う等機能の充実に努めております。

また、監査役及び内部監査室は、内部統制委員会等を通じて内部統制部門と連携し、必要に応じて会計監査人と情報共有し、監査を行っております。

社外取締役及び社外監査役との関係

当社では、社外役員5名（社外取締役3名、社外監査役2名）が選任されております。社外役員は、取締役会または監査役会を通じ、常勤監査役、内部監査室、会計監査人等関係各者と連携し、外部の視点から当社執行部門の監視・監督を行っております。

また、社外役員は、取締役会の席上においても、経営陣とはそれぞれ独立した立場において、非常に活発な発言があり、牽制機能も十分に果たしていると考えております。

上記のように、当社の社外役員による牽制機能が十分に働いていると考えておりますが、当社の経営環境、社会情勢等を勘案し、適宜人員の増員の必要性について検討してまいります。

・社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針の内容

社外取締役及び社外監査役候補者の決定にあたっては、候補者の社会的地位、経歴及び当社グループとの人的関係、取引関係その他の利害関係の有無等を考慮した上で、当社の経営から独立した視点をもって職務の遂行ができる人材を決定しております。

・ 社外取締役及び社外監査役につき、提出会社との関係

社外取締役 辻 晴雄氏は社長経験者として企業経営に関する豊富な経験や高い見識を有し、経営の監督機能強化に尽力しております。当社の全事業における取り組みを十分に把握し、経営の透明性・公正性を高めるために積極的に発言するなど、当社から独立した立場でステークホルダーの視点を踏まえて取締役会に提言しております。当社と同氏の間には特記すべき関係はありません。また、同氏は株式会社ティーケーピーの社外取締役を兼職しておりますが、当社と上記会社との間には特記すべき関係はありません。

社外取締役 伊藤 邦雄氏は、大学教授として長年会計学・経営学を研究しており、また、他社の社外役員を歴任するほか、政府による企業の持続的成長に関する研究会において中心的役割を果たし、当社においてもこれらの活動で培った知見を基に企業価値向上の観点から経営の監督機能を果たしています。当社と同氏の間には特記すべき関係はありません。また、同氏は一橋大学大学院経営管理研究科特任教授、曙ブレーキ工業株式会社・株式会社セブン&アイ・ホールディングス・東レ株式会社の社外取締役を兼職しておりますが、当社と同大学及び当社と上記会社との間には特記すべき関係はありません。

社外取締役 佐々木 かをり氏は、経営者としての実績・見識に加え、他社社外役員を歴任して企業経営を豊富に経験するほか、国際女性ビジネス会議を長年にわたり開催し、女性活躍推進の先駆者として活躍しています。また、働き方改革にも精通し、ダイバーシティの視点でステークホルダーの意見を取締役会に反映するなど、企業価値向上に貢献しております。当社と同氏の間には特記すべき関係はありません。また同氏は、株式会社ユニカルインターナショナル・株式会社イー・ウーマンの代表取締役、株式会社エージーピー・日本郵便株式会社の社外取締役を兼務しております。当社は、株式会社イー・ウーマンが提供するダイバーシティに対する理解度を測定するサービスを利用しておりますが、その費用は5百万円以下であります。当社と他の上記会社との間には特記すべき関係はありません。

社外監査役 酒井 竜児氏は、弁護士として企業活動の適正性を判断するに十分な法的知見を有し、重要な経営判断に関わる事案を多数経験しており、これらの知見・経験が当社の企業活動に対する監査に活かされております。同氏は、長島・大野・常松法律事務所のパートナー弁護士であり、当社は同事務所に対して一部の法的助言業務を委託しておりますが、同氏は当社からの委託業務を担当しておりません。また、東京エレクトロン株式会社の社外監査役を兼職しておりますが、当社と同社との間に特記すべき関係はありません。

社外監査役 八田 陽子氏は、税理士法人での業務経験があり国際税務に関する高い知見を有し、また他社社外役員を歴任するほか、大学の監事を長らく務めており、これらの知見・経験に基づいて、グローバルな事案に関する当社の企業活動に対する監査が適切に行われております。当社と同氏の間には特記すべき関係はありません。また同氏は、国際基督教大学の監事、株式会社IHI・日本製紙株式会社の社外監査役を兼務しておりますが、当社と上記大学および上記会社との間には特記すべき関係はありません。

当社と社外取締役及び当社と社外監査役は、会社法第427条第1項の規定による責任限定契約を締結しております。契約内容としては、その職務を行うにつき善意にして且つ重大な過失がないときは、会社法第425条第1項の規定する最低責任限度額をもって、その責任の限度とする旨を定めております。

会計監査の状況

会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人とは、業務運用上の改善に繋がる情報共有を行っております。なお、会計監査業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人名、継続監査年数および補助者の構成は以下のとおりであります。

公認会計士の氏名等		所属する監査法人名	補助者の構成
指定有限責任社員	前川 英樹	EY新日本有限責任監査法人	公認会計士16名 その他 20名
業務執行社員	松浦 大		

継続年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

同監査法人はすでに自主的に業務執行社員について、当社の会計監査に一定期間を超えて関与することのないよう措置をとっております。

役員報酬の内容

イ．役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	662	662	-	-	-	6
監査役 (社外監査役を除く。)	42	42	-	-	-	2
社外役員	81	81	-	-	-	5

(注) 1．当社取締役は、上記支給額以外に使用人としての給与の支給を受けておりません。

2．取締役の報酬限度額は、平成27年6月26日開催の当社第97期定時株主総会において年額9億円(うち社外取締役分1億円)以内と決議されております。

3. 監査役の報酬限度額は、平成21年6月26日開催の当社第91期定時株主総会において年額8千万円以内と決議されております。
4. 平成30年3月29日開催の第100期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役へ支給した報酬等を含んでおります。

ロ. 報酬等の総額が1億円以上である者の報酬等の総額等

氏名	役員区分	会社区分	報酬等の種類別の額(百万円)				報酬等の総額(百万円)
			基本報酬	ストックオプション	賞与	退職慰労金	
小林 一雅	取締役会長	提出会社	289	-	-	-	289
小林 豊	取締役副会長	提出会社	188	-	-	-	188

ハ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の取締役の報酬は、業績連動型の年俸制となっております。その額の決定につきましては、業績向上ならびに担当部門における課題達成への意欲を高めることを目的に、事業年度ごとの業績(売上高・EPS・ROE)、および担当部門における中期経営計画での担当課題の達成度からなる個人業績に基づいております。

なお、取締役の報酬等の総額は、報酬年額9億円(うち社外取締役分1億円)を上限として、業績等に基づき評価を決定しております。

それぞれの取締役の報酬額の妥当性については、社外取締役を委員長とする報酬諮問委員会(社外有識者、社外取締役、当社代表取締役、人事担当取締役で構成)において協議し、その協議結果を取締役に付議し決定しております。また、株式報酬としてのストック・オプション等については、これまでも全社的な制度として導入してきており、今後も適時検討し必要に応じて導入します。

監査役の報酬等の総額は、報酬総額8千万円を上限として、監査役の協議により、一定の範囲内で報酬額を決定しております。

なお、退職慰労金制度につきましては、平成21年度より廃止しております。

取締役の定数

当社は、取締役を12名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、選任決議は累積投票によらない旨定款に定めております。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項について、法令に別段の定めがある場合を除き株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等を取締役会の権限とすることにより、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものです。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役会の決議によって、取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であった者を含む。)の会社法第423条第1項の賠償責任について法令に定める要件に該当する場合には、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として免除することができる旨を定款で定めております。

また、当社は、取締役(業務執行取締役等であるものを除く。)及び監査役との間で、会社法第423条第1項の賠償責任について、会社法第425条第1項各号に定める金額の合計額を限度とする契約を締結することができる旨を定款で定めております。

これは、職務の遂行にあたりその能力を十分に発揮し、期待される役割を果たすことができる環境を整えることを目的としております。

自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会決議をもって市場取引等により当社の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とすることを目的としております。

株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
39銘柄 10,032百万円

口．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的
 前事業年度
 特定投資株式

銘柄	株式数（株）	貸借対照表計上額 （百万円）	保有目的
(株)P A L T A C	600,000	3,084	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
(株)マツモトキヨシホールディングス	377,600	1,752	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)マンダム	346,000	1,278	今後の事業拡大、効率化を見据えた連携強化のため
(株)博報堂 D Yホールディングス	598,700	875	広告媒体の主要仕入先であり、協力関係を維持していくため
東邦ホールディングス(株)	247,500	630	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
(株)あらた	87,260	535	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
凸版印刷(株)	460,000	468	資材の主要仕入先であり、協力関係を維持していくため
大木ヘルスケアホールディングス(株)	179,046	465	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
大日本印刷(株)	159,000	399	資材の主要仕入先であり、協力関係を維持していくため
(株)サンドラッグ	75,792	397	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)プラネット	176,000	356	今後の事業拡大、効率化を見据えた連携強化のため
(株)三菱 U F J フィナンシャル・グループ	363,860	300	当社の財務取引に係る、協力関係を維持していくため
アフラック・インコーポレーテッド	22,800	224	当社従業員の福利厚生のため
(株)ココカラファイン	25,980	189	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
野村ホールディングス(株)	200,000	133	当社の財務取引に係る、協力関係を維持していくため
(株)キリン堂ホールディングス	33,792	68	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)三井住友フィナンシャルグループ	14,064	68	当社の財務取引に係る、協力関係を維持していくため
(株)ツルハホールディングス	4,000	61	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
C B グループマネジメント(株)	13,857	56	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
イオン(株)	22,785	43	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)クリエイト S Dホールディングス	12,000	36	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)ライフコーポレーション	8,151	24	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)いなげや	11,846	22	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
エイチ・ツー・オーリテイリング(株)	8,769	20	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
アルフレッサホールディングス(株)	5,588	14	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
(株)フジ	6,000	14	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
ハリマ共和物産(株)	5,280	14	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
(株)みずほフィナンシャルグループ	63,720	13	当社の財務取引に係る、協力関係を維持していくため
(株)エンチョー	27,950	12	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)カワチ薬品	4,000	11	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため

当事業年度
 特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)P A L T A C	600,000	3,114	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
(株)マツモトキヨシホールディングス	377,600	1,270	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)マンダム	346,000	1,041	今後の事業拡大、効率化を見据えた連携強化のため
(株)博報堂D Yホールディングス	598,700	942	広告媒体の主要仕入先であり、協力関係を維持していくため
東邦ホールディングス(株)	247,500	665	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
(株)あらた	87,260	380	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
凸版印刷(株)	230,000	371	資材の主要仕入先であり、協力関係を維持していくため
大日本印刷(株)	159,000	365	資材の主要仕入先であり、協力関係を維持していくため
(株)プラネット	176,000	324	今後の事業拡大、効率化を見据えた連携強化のため
(株)サンドラッグ	77,247	252	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
大木ヘルスケアホールディングス(株)	181,276	230	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
アフラック・インコーポレーテッド	45,600	228	当社従業員の福利厚生のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	363,860	195	当社の財務取引に係る、協力関係を維持していくため
(株)ココカラファイン	25,980	139	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
野村ホールディングス(株)	200,000	84	当社の財務取引に係る、協力関係を維持していくため

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)三井住友フィナンシャルグループ	14,064	51	当社の財務取引に係る、協力関係を維持していくため
イオン(株)	22,886	49	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)キリン堂ホールディングス	34,869	44	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
C Bグループマネジメント(株)	14,373	43	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
(株)ツルハホールディングス	4,000	37	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)クリエイイトSDホールディングス	12,000	31	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)ライフコーポレーション	8,438	19	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)いなげや	12,119	17	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
アルフレッサホールディングス(株)	5,588	15	当社製品の主要代理店であり、協力関係を維持していくため
エイチ・ツー・オーリテイリング(株)	9,559	14	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)エンチョー	14,769	11	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)フジ	6,000	11	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
(株)みずほフィナンシャルグループ	63,720	10	当社の財務取引に係る、協力関係を維持していくため
(株)オークワ	8,866	9	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため
ユニー・ファミリーマートホールディングス(株)	642	8	当社製品の主要量販店であり、協力関係を維持していくため

八．保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

	前事業年度 (百万円)	当事業年度(百万円)			
	貸借対照表計上額の合計額	貸借対照表計上額の合計額	受取配当金の合計額	売却損益の合計額	評価損益の合計額
非上場株式	26	24	0	0	(注)
上記以外の株式	13,646	14,565	237	-	10,746

(注) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「評価損益の合計額」は記載していません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	71	5	69	15
連結子会社	-	-	-	-
計	71	5	69	15

【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

連結子会社において当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属している監査法人に対する支払はありません。

当連結会計年度(自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)

連結子会社において当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属している監査法人に対する支払はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容としましては、国際財務報告基準(IFRS)の助言業務、米国子会社の内部統制導入支援業務等が該当いたします。

当連結会計年度(自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容としましては、国際財務報告基準(IFRS)の助言業務、米国子会社の内部統制導入支援業務等が該当いたします。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、監査公認会計士等の独立性を損なうことのないよう監査日数、業務の特性等を勘案した上で決定するものであります。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成30年1月1日から平成30年12月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。なお、新日本有限責任監査法人は平成30年7月1日をもって、名称をEY新日本有限責任監査法人に変更しております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	64,990	74,456
受取手形及び売掛金	6 50,032	6 53,386
有価証券	8,300	8,300
商品及び製品	9,789	9,430
仕掛品	693	934
原材料及び貯蔵品	2,807	3,279
繰延税金資産	3,221	3,234
その他	2,547	2,167
貸倒引当金	34	131
流動資産合計	142,346	155,058
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1 8,212	1 8,447
機械装置及び運搬具（純額）	1 3,985	1 4,466
工具、器具及び備品（純額）	1 1,337	1 1,457
土地	3,576	3,625
リース資産（純額）	1 573	1 515
建設仮勘定	562	512
有形固定資産合計	18,247	19,024
無形固定資産		
のれん	2,626	3,241
商標権	410	108
ソフトウェア	906	905
その他	855	567
無形固定資産合計	4,798	4,823
投資その他の資産		
投資有価証券	2 46,797	2 45,916
長期貸付金	261	386
繰延税金資産	539	594
投資不動産（純額）	1 2,981	1 2,956
その他	3 3,243	3 2,697
貸倒引当金	384	469
投資その他の資産合計	53,438	52,082
固定資産合計	76,484	75,930
資産合計	218,831	230,989

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,827	6,870
電子記録債務	9,221	9,070
短期借入金	194	506
未払金	24,446	25,126
リース債務	55	53
未払法人税等	4,654	4,423
未払消費税等	1,245	1,187
返品調整引当金	1,793	1,638
賞与引当金	2,250	2,355
資産除去債務	38	42
その他	2,095	2,103
流動負債合計	54,274	55,215
固定負債		
リース債務	527	472
繰延税金負債	5,224	4,851
退職給付に係る負債	2,805	2,057
役員退職慰労引当金	37	38
資産除去債務	81	77
その他	2,068	2,027
固定負債合計	10,744	9,524
負債合計	65,019	64,740
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,450	3,450
資本剰余金	4,183	4,183
利益剰余金	146,758	159,857
自己株式	12,259	11,763
株主資本合計	142,132	155,728
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	13,267	12,636
繰延ヘッジ損益	9	2
為替換算調整勘定	403	318
退職給付に係る調整累計額	2,038	1,798
その他の包括利益累計額合計	11,642	10,520
新株予約権	36	-
純資産合計	153,811	166,249
負債純資産合計	218,831	230,989

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
売上高	156,761	167,479
売上原価	1 61,238	1 64,359
売上総利益	95,522	103,119
販売費及び一般管理費		
販売促進費	11,106	11,993
運賃保管料	5,871	6,343
広告宣伝費	22,361	23,689
貸倒引当金繰入額	27	117
給料手当及び賞与	10,096	11,067
退職給付費用	812	826
役員退職慰労引当金繰入額	9	0
租税公課	601	622
減価償却費	741	718
のれん償却額	593	439
賃借料	1,461	1,500
支払手数料	5,504	5,706
研究開発費	2 7,239	2 7,031
その他	6,168	6,772
販売費及び一般管理費合計	72,596	76,830
営業利益	22,925	26,289
営業外収益		
受取利息	273	289
受取配当金	384	426
不動産賃貸料	296	293
受取補償金	1,500	1,200
その他	269	319
営業外収益合計	2,724	2,528
営業外費用		
支払利息	38	35
売上割引	750	745
不動産賃貸原価	78	75
為替差損	210	328
貸倒引当金繰入額	118	99
その他	261	158
営業外費用合計	1,458	1,443
経常利益	24,191	27,374

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
特別利益		
固定資産売却益	3 0	3 1
投資有価証券売却益	3	0
受取補償金	98	-
新株予約権戻入益	0	5
その他	3	-
特別利益合計	105	7
特別損失		
固定資産処分損	4 96	4 106
減損損失	5 1,544	5 1,956
その他	84	15
特別損失合計	1,724	2,078
税金等調整前当期純利益	22,572	25,304
法人税、住民税及び事業税	7,601	7,676
法人税等調整額	892	396
法人税等合計	6,709	7,280
当期純利益	15,863	18,023
親会社株主に帰属する当期純利益	15,863	18,023

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
当期純利益	15,863	18,023
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,786	631
繰延ヘッジ損益	31	7
為替換算調整勘定	277	722
退職給付に係る調整額	133	239
その他の包括利益合計	1 3,611	1 1,121
包括利益	19,474	16,901
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	19,474	16,901
非支配株主に係る包括利益	-	-

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,450	4,958	147,901	21,088	135,221
当期変動額					
剰余金の配当			4,336		4,336
親会社株主に帰属する当期純利益			15,863		15,863
自己株式の取得				4,999	4,999
自己株式の処分		3,335		3,718	383
自己株式の消却		10,110		10,110	-
利益剰余金から資本剰余金への振替		12,670	12,670		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	775	1,143	8,828	6,910
当期末残高	3,450	4,183	146,758	12,259	142,132

	その他の包括利益累計額					新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	9,481	40	680	2,171	8,031	67	143,320
当期変動額							
剰余金の配当							4,336
親会社株主に帰属する当期純利益							15,863
自己株式の取得							4,999
自己株式の処分							383
自己株式の消却							-
利益剰余金から資本剰余金への振替							-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,786	31	277	133	3,611	30	3,580
当期変動額合計	3,786	31	277	133	3,611	30	10,491
当期末残高	13,267	9	403	2,038	11,642	36	153,811

当連結会計年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,450	4,183	146,758	12,259	142,132
当期変動額					
剰余金の配当			4,819		4,819
親会社株主に帰属する当期純利益			18,023		18,023
自己株式の取得					-
自己株式の処分		104		496	392
自己株式の消却					-
利益剰余金から資本剰余金への振替		104	104		-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	13,099	496	13,595
当期末残高	3,450	4,183	159,857	11,763	155,728

	その他の包括利益累計額					新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	13,267	9	403	2,038	11,642	36	153,811
当期変動額							
剰余金の配当							4,819
親会社株主に帰属する当期純利益							18,023
自己株式の取得							-
自己株式の処分							392
自己株式の消却							-
利益剰余金から資本剰余金への振替							-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	631	7	722	239	1,121	36	1,158
当期変動額合計	631	7	722	239	1,121	36	12,437
当期末残高	12,636	2	318	1,798	10,520	-	166,249

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	22,572	25,304
減価償却費	2,926	2,964
減損損失	1,544	1,956
のれん償却額	593	439
貸倒引当金の増減額（は減少）	106	202
退職給付に係る負債の増減額（は減少）	1,743	797
受取利息及び受取配当金	657	715
支払利息	38	35
投資有価証券売却損益（は益）	3	0
固定資産除売却損益（は益）	96	104
売上債権の増減額（は増加）	2,969	3,367
たな卸資産の増減額（は増加）	526	493
仕入債務の増減額（は減少）	1,500	481
未払金の増減額（は減少）	4,057	320
未払消費税等の増減額（は減少）	142	43
その他	312	849
小計	27,990	27,241
利息及び配当金の受取額	675	745
利息の支払額	27	26
法人税等の支払額	6,287	7,953
営業活動によるキャッシュ・フロー	22,350	20,007
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	52,455	55,084
定期預金の払戻による収入	63,220	52,832
有形固定資産の取得による支出	2,841	3,419
有形固定資産の売却による収入	3	2
無形固定資産の取得による支出	364	282
投資有価証券の取得による支出	1,064	27
投資有価証券の売却による収入	715	641
投資その他の資産の取得による支出	132	202
投資その他の資産の売却による収入	49	72
短期貸付金の増減額（は増加）	49	10
長期貸付けによる支出	89	123
長期貸付金の回収による収入	1	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	2 2,461
その他	50	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,039	8,062

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（は減少）	47	228
長期借入金の返済による支出	-	1
自己株式の取得による支出	5,068	-
自己株式の処分による収入	352	361
配当金の支払額	4,343	4,818
リース債務の返済による支出	56	54
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,162	4,285
現金及び現金同等物に係る換算差額	137	431
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	20,365	7,228
現金及び現金同等物の期首残高	28,322	48,688
現金及び現金同等物の期末残高	1 48,688	1 55,916

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 39社

主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略しております。
当連結会計年度より、新規設立により小林製薬(中国)有限公司を、持分取得により江蘇小林製薬有限公司を、株式取得により(株)True Natureを連結の範囲に含めております。

(2) 主要な非連結子会社名

小林製薬チャレンジド(株)

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分相当額)及び利益剰余金(持分相当額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社及び関連会社はありません。

(2) 持分法非適用の非連結子会社及び関連会社のうち主要な会社等の名称

(株)ザ・ファン

持分法を適用していない理由

持分法非適用会社は、それぞれ当期純損益(持分相当額)及び利益剰余金(持分相当額)等の連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用の範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち桐灰化学(株)の決算日は6月30日であり、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定)によっております。

時価のないもの

主として移動平均法による原価法によっております。

デリバティブ

時価法によっております。

たな卸資産

商品、原材料

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

製品、仕掛品、貯蔵品

総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社及び国内連結子会社は定率法を採用し在外連結子会社は定額法によっております。

ただし、当社及び国内連結子会社の一部は平成10年4月1日以降の取得に係る建物(建物附属設備を除く。)については定額法によっております。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

また、顧客関係、商標権等に関する無形固定資産については、利用可能期間に応じて2年から14年の定額法を採用しております。

長期前払費用

均等償却しております。

リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

当社及び国内連結子会社は、売上債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。また、在外連結子会社は、債権の実態に応じて回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

当社及び連結子会社のうち一部は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

返品調整引当金

当社及び連結子会社のうち一部は、返品損失に備えるため、返品損失見積額を計上しております。

役員退職慰労引当金

国内連結子会社のうち一部は、役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

なお、当社は平成21年2月12日開催の取締役会において、役員退職慰労金制度の廃止を決議しました。また、平成21年6月26日開催の定時株主総会にて、それまでの在任期間に対応する金額は対象役員の退任時に支払う旨の議案が承認されております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

従業員の退職給付に備えるため、当社及び連結子会社のうち一部は、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき連結会計年度末に発生していると認められる額を計上しております。その他の連結子会社の一部は、期末要支給額の100%を計上しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日連結会計年度から費用処理することとしております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、為替予約及びオプションについて振当処理の要件を充たしている場合は振当処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約及びオプション

ヘッジ対象...外貨建債務及び外貨建予定取引

ヘッジ方針

外貨建予定取引に関して、為替予約及びオプションを付し為替変動リスクをヘッジする方針であります。

ヘッジ有効性の評価の方法

通貨関連の取引につきましては、ヘッジ対象の時価変動額とヘッジ手段の時価変動額を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却に関しては、投資の効果が発現する期間を考慮し、発生時以降20年以内で均等償却しております。ただし、金額が僅少なものについては、発生年度において一括償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期的な投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理方法

税抜方式によっております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会)

(1) 概要

国際会計基準審議会(IASB)及び米国財務会計基準審議会(FASB)は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、平成26年5月に「顧客との契約から生じる収益」(IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606)を公表しており、IFRS第15号は平成30年1月1日以降開始する事業年度から、Topic606は平成29年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

平成34年12月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

前連結会計年度において、「特別利益」の「その他」に含めていた「新株予約権戻入益」は、特別利益の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別利益」の「その他」に表示していた3百万円は、「新株予約権戻入益」0百万円、「その他」3百万円として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産及び投資その他の資産の投資不動産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
有形固定資産	25,950百万円	27,708百万円
投資その他の資産の投資不動産	934	964

2 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券(株式)	425百万円	425百万円

3 担保資産

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
(1) 定期預金	42百万円	42百万円
担保に係る債務(保証債務)	25百万円	21百万円
(2) 差入保証金	80百万円	80百万円
(注) 関税法・消費税法に基づく納期限延長制度を利用する際の担保として供託しているものであります。		

4 当社及び連結子会社(前連結会計年度(Kobayashi Healthcare Europe,Ltd、上海小林日化有限公司、Kobayashi Consumer Products LLC、PT.Kobayashi Pharmaceutical Indonesia)),(当連結会計年度(Kobayashi Healthcare Europe,Ltd、上海小林日化有限公司、Kobayashi Healthcare International Inc、Kobayashi Healthcare Australia Pty.,Ltd))においては、運転資金の効率的な調整を行うため、取引銀行6行と当座貸越契約等を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの 総額	16,675百万円	16,599百万円
借入実行残高	3	6
差引額	16,672	16,592

5 保証債務

被災地中小企業の金融機関からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
被災地中小企業	25百万円	21百万円

6 期末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当連結会計年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
受取手形	0百万円	0百万円
支払手形	436	224

(連結損益計算書関係)

1 収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
	1,991百万円	1,764百万円

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
	7,239百万円	7,031百万円

3 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
機械装置及び運搬具	0百万円	1百万円
計	0	1

4 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
建物及び構築物	24百万円	19百万円
機械装置及び運搬具	44	49
工具、器具及び備品	21	18
ソフトウェア	0	3
その他	4	13
計	96	106

5 減損損失

前連結会計年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

当社グループは、事業部毎の資産を基本単位としてキャッシュ・フローを生み出す最小単位ごとにグルーピングを行っており、本社・研究所等については、共用資産としております。また、遊休資産については個別の物件ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、事業環境等が変化した、もしくは、今後の使用見込みが少ない製造用設備については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損しております。将来キャッシュ・フローを見込めないその他無形固定資産、超過収益力を見込めないのれんについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額しております。

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
大阪府他	事業用資産 - 製造用設備	建物等	110
大阪府	事業用資産 - その他	のれん	227
米国	事業用資産 - その他	その他無形固定資産	70
米国	事業用資産 - その他	のれん	1,136
		合計	1,544

なお、大阪府他における事業用資産 - 製造用設備、大阪府における事業用資産 - その他の回収可能価額については正味売却価額と使用価値のいずれか高い方の金額を使用しており、将来キャッシュ・フローを見込めないことから帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。米国における事業用資産 - その他の回収可能価額については収益性が著しく低下したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを14.3%で割り引いて算定しております。

当連結会計年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

当社グループは、事業部毎の資産を基本単位としてキャッシュ・フローを生み出す最小単位ごとにグルーピングを行っており、本社・研究所等については、共用資産としております。また、遊休資産については個別の物件ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、今後の使用見込みが少ない製造用設備については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損しております。将来キャッシュ・フローを見込めない商標権と顧客関連資産、超過収益力を見込めないのれんについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損しております。

場所	用途	種類	減損損失 (百万円)
大阪府他	事業用資産 - 製造用設備	機械装置等	12
中国	事業用資産 - その他	顧客関連資産	326
米国	事業用資産 - その他	のれん、商標権、 顧客関連資産	852
米国	事業用資産 - その他	のれん	765
		合計	1,956

なお、大阪府他における事業用資産 - 製造用設備については正味売却価額と使用価値のいずれか高い方の金額を使用しており、将来キャッシュ・フローを見込めないことから帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。中国における事業用資産 - その他については、将来キャッシュ・フローを見込めないことから帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。米国における事業用資産 - その他の回収可能価額については収益性が著しく低下したため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しました。回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローを14.3%で割り引いて算定しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	5,460百万円	852百万円
組替調整額	3	-
税効果調整前	5,456	852
税効果額	1,670	221
その他有価証券評価差額金	3,786	631
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	44	10
組替調整額	-	-
税効果調整前	44	10
税効果額	13	3
繰延ヘッジ損益	31	7
為替換算調整勘定：		
当期発生額	277	722
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	211	50
組替調整額	403	395
税効果調整前	192	345
税効果額	58	105
退職給付に係る調整額	133	239
その他の包括利益合計	3,611	1,121

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成29年1月1日至平成29年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)	85,050,000	-	3,000,000	82,050,000
合計	85,050,000	-	3,000,000	82,050,000
自己株式				
普通株式(注)	6,257,437	817,900	3,972,400	3,102,937
合計	6,257,437	817,900	3,972,400	3,102,937

- (注) 1. 普通株式の発行済株式総数の減少3,000,000株は取締役会決議に基づく自己株式の消却による減少であります。
 2. 普通株式の自己株式数の増加817,900株は、取締役会決議に基づく自己株式の取得による増加であります。
 3. 普通株式の自己株式数の減少3,972,400株は、ストック・オプションの行使による減少122,400株と、取締役会決議に基づく自己株式の消却による減少3,000,000株と、株主総会決議による自己株式の処分による減少850,000株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権 の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (百万円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	ストック・ オプション としての新 株予約権	-	-	-	-	-	36
合計		-	-	-	-	-	36

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成29年2月22日 取締役会	普通株式	2,127	27	平成28年12月31日	平成29年3月9日
平成29年7月31日 取締役会	普通株式	2,209	28	平成29年6月30日	平成29年9月7日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成30年2月22日 取締役会	普通株式	2,368	利益剰余金	30	平成29年12月31日	平成30年3月8日

当連結会計年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	82,050,000	-	-	82,050,000
合計	82,050,000	-	-	82,050,000
自己株式				
普通株式（注）	3,102,937	-	125,600	2,977,337
合計	3,102,937	-	125,600	2,977,337

（注）普通株式の自己株式数の減少125,600株は、ストック・オプションの行使による減少であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権 の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （百万円）
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 （親会社）	ストック・ オプション としての新 株予約権	-	-	-	-	-	-
合計		-	-	-	-	-	-

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
平成30年2月22日 取締役会	普通株式	2,368	30	平成29年12月31日	平成30年3月8日
平成30年7月31日 取締役会	普通株式	2,451	31	平成30年6月30日	平成30年9月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成31年2月18日 取締役会	普通株式	2,767	利益剰余金	35	平成30年12月31日	平成31年3月7日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
現金及び預金勘定	64,990百万円	74,456百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	24,602	26,840
償還期間が3ヶ月以内の有価証券	8,300	8,300
現金及び現金同等物	48,688	55,916

2 当連結会計年度に持分及び株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

持分の取得により新たに江蘇小林製薬有限公司を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額につきましては、持分取得の相手先との守秘義務に基づき非開示としておりますが、外部の専門家による算定結果に基づき、また、外部の弁護士及び公認会計士ならびに税理士等による法務・財務に関する調査の結果等を合理的に勘案の上、決定しております。

株式の取得により新たに(株)True Natureを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得のための支出(純額)との関係は次のとおりであります。

流動資産	113百万円
固定資産	1
のれん	687
流動負債	100
固定負債	1
株式の取得価額	700
現金及び現金同等物	33
未払金	210
差引：取得のための支出	456

(リース取引関係)

(借主側)

1. ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

主として、国内家庭用品製造販売事業における事務所設備(建物)であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
1年内	236	323
1年超	940	863
合計	1,176	1,187

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性・流動性の高い金融資産で運用し、また資金調達については、原則、自己資金による方針です。

(2)金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主に政府保証債・地方債・利付国債と業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金並びに電子記録債務の支払期日は4ヶ月以内であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、継続的安定的に発生する外貨建て債務については先物為替予約取引ならびにオプション取引を利用してヘッジしております。

借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、運転資金ならびに設備資金の調達を目的としたものであります。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引ならびにオプション取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (5)重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権について、各事業部門における管理責任者が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、外貨建ての営業債務について、通貨別月別に把握された為替の変動リスクに対して、先物為替予約ならびにオプション取引を利用してヘッジしております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また株式については、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度額等を定めた経営会議の決議に従い、担当部署が財務担当役員の承認を得て行っております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項「デリバティブ取引関係」におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2.参照）。

前連結会計年度（平成29年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	64,990	64,990	-
(2) 受取手形及び売掛金	50,032	50,032	-
(3) 有価証券及び投資有価証券	54,639	54,639	-
(4) 長期貸付金	261		
貸倒引当金(*1)	240		
	21	20	0
資産計	169,684	169,683	0
(1) 支払手形及び買掛金	8,279	8,279	-
(2) 電子記録債務	9,221	9,221	-
(3) 短期借入金	194	194	-
(4) 未払金	24,446	24,446	-
(5) リース債務(流動負債)	55	55	0
(6) 未払法人税等	4,654	4,654	-
(7) 未払消費税等	1,245	1,245	-
(8) リース債務(固定負債)	527	527	0
負債計	48,624	48,624	0
デリバティブ取引計(*2)	13	13	-

(*1)長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については ー で示しております。

当連結会計年度（平成30年12月31日）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	74,456	74,456	-
(2) 受取手形及び売掛金	53,386	53,386	-
(3) 有価証券及び投資有価証券	53,761	53,761	-
(4) 長期貸付金	386		
貸倒引当金(*1)	349		
	37	35	1
資産計	181,642	181,641	1
(1) 支払手形及び買掛金	8,706	8,706	-
(2) 電子記録債務	9,070	9,070	-
(3) 短期借入金	506	506	-
(4) 未払金	25,126	25,126	-
(5) リース債務(流動負債)	53	53	0
(6) 未払法人税等	4,423	4,423	-
(7) 未払消費税等	1,187	1,187	-
(8) リース債務(固定負債)	472	472	0
負債計	49,547	49,547	0
デリバティブ取引計(*2)	3	3	-

(*1)長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(*2)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については 〃 で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3)有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(4)長期貸付金

これらの時価は、一定の期間ごとに分類し、与信管理上の信用リスク区分ごとに、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。また、貸倒懸念債権については、同様の割引率による見積キャッシュ・フローの割引現在価値、又は、担保及び保証による回収見込額等により、時価を算定しております。

負債

- (1)支払手形及び買掛金、(2)電子記録債務、(3)短期借入金、(4)未払金、(6)未払法人税等、(7)未払消費税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (5)リース債務(流動負債)、(8)リース債務(固定負債)

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
非上場株式	457	455

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成29年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	64,985	-	-	-
受取手形及び売掛金	50,032	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期 があるもの				
国債・地方債等	-	20,064	-	-
信託受益権	8,300	-	-	-
長期貸付金	0	0	-	20
合計	123,319	20,064	-	20

当連結会計年度(平成30年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
預金	74,452	-	-	-
受取手形及び売掛金	53,386	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期 があるもの				
国債・地方債等	-	20,064	-	-
信託受益権	8,300	-	-	-
長期貸付金	0	1	-	34
合計	136,140	20,065	-	34

4. 短期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額
 前連結会計年度（平成29年12月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	194	-	-	-	-	-
リース債務	55	54	52	51	50	319
合計	249	54	52	51	50	319

当連結会計年度（平成30年12月31日）

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	506	-	-	-	-	-
リース債務	53	52	50	50	49	270
合計	559	52	50	50	49	270

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成29年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	25,574	7,184	18,389
	(2) 債券			
	国債・地方債等	19,756	19,222	534
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	45,331	26,407	18,924
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	8	8	0
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	9,300	9,332	32
	(3) その他	-	-	-
	小計	9,308	9,341	32
合計		54,639	35,748	18,891

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 32百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成30年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	24,859	7,186	17,673
	(2) 債券			
	国債・地方債等	19,570	19,178	391
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	44,430	26,364	18,065
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	31	34	2
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	9,300	9,324	24
	(3) その他	-	-	-
	小計	9,331	9,358	27
合計		53,761	35,723	18,038

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 29百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上記の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	4	3	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	4	3	-

当連結会計年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	2	0	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	-	-	-
合計	2	0	-

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成29年12月31日)

当社グループが利用しているデリバティブ取引はすべてヘッジ会計が適用されるため、該当事項はありません。

当連結会計年度(平成30年12月31日)

当社グループが利用しているデリバティブ取引はすべてヘッジ会計が適用されるため、該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成29年12月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引				
	買建 米ドル	買掛金	386	78	13
合計			386	78	13

(注) 時価の算定方法

デリバティブの時価については、取引先金融機関から提示された価格に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成30年12月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等 (百万円)	契約額等のうち 1年超 (百万円)	時価 (百万円)
為替予約等の振当処理	為替予約取引				
	買建 米ドル	買掛金	78	-	3
合計			78	-	3

(注) 時価の算定方法

デリバティブの時価については、取引先金融機関から提示された価格に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社の一部は、確定給付型の制度として規約型確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を、確定拠出型の制度として確定拠出企業年金制度を設けております。

なお、連結子会社の一部が有する退職一時金制度は、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法により、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算をしております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表((3)に掲げられたものを除く)

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
退職給付債務の期首残高	11,698百万円	11,984百万円
勤務費用	580	610
利息費用	36	38
数理計算上の差異の発生額	167	2
退職給付の支払額	499	419
退職給付債務の期末残高	11,984	12,211

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表((3)に掲げられたものを除く)

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
年金資産の期首残高	8,117百万円	9,947百万円
期待運用収益	121	149
数理計算上の差異の発生額	39	48
事業主からの拠出額	2,202	1,271
退職給付の支払額	451	414
その他	4	4
年金資産の期末残高	9,947	10,901

(3) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	755百万円	768百万円
退職給付費用	157	152
退職給付の支払額	145	174
退職給付に係る負債の期末残高	768	746

(4) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
積立型制度の退職給付債務	11,919百万円	12,141百万円
年金資産	9,947	10,901
	1,972	1,239
非積立型制度の退職給付債務	832	817
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,805	2,057
退職給付に係る負債	2,805	2,057
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	2,805	2,057

(5) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
勤務費用	580百万円	610百万円
利息費用	36	38
期待運用収益	121	149
数理計算上の差異の費用処理額	443	435
過去勤務費用の費用処理額	39	39
簡便法で計算した退職給付費用	157	152
確定給付制度に係る退職給付費用	1,055	1,047

(6) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
数理計算上の差異	232百万円	385百万円
過去勤務費用	39	39
合計	192	345

(7) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
未認識数理計算上の差異	3,236百万円	2,851百万円
未認識過去勤務費用	299	259
合計	2,937	2,592

(8) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
債券	21%	21%
一般勘定	79	79
その他	0	0
合計	100	100

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(9) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
割引率	0.1～0.3%	0.1～0.3%
長期期待運用収益率	1.5%	1.5%

(注) 予想昇給率については、当社及び連結子会社の一部の退職給付制度はポイント制を採用しており、数理計算上、退職給付債務との関連性が希薄であるため、注記を省略しております。

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度183百万円、当連結会計年度190百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
売上原価の株式報酬費用	-	-
一般管理費の株式報酬費用	-	-

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額及び科目名

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年 1月 1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 1月 1日 至 平成30年12月31日)
新株予約権戻入益 (特別利益)	0	5

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	平成25年 ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 5名 当社執行役員 9名 当社従業員 1,125名 当社子会社取締役 6名 当社子会社従業員 515名
株式の種類別のストック・オプションの数(注1)	普通株式 905,200株
付与日	平成25年 8月26日
権利確定条件	当社又は当社子会社の取締役、執行役員、従業員その他これに準ずる地位にあることを要する。但し、定年退職その他の正当な理由がある場合は、この限りではない。
対象勤務期間	2年間(自平成25年 7月 1日 至平成27年 6月30日)
権利行使期間	自 平成27年 7月 1日 至 平成30年 6月30日

(注) 株式数に換算して記載しております。なお、平成28年 7月 1日付株式分割(1株につき2株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度（平成30年12月期）において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	平成25年 ストック・オプション
権利確定前 (株)	
前連結会計年度末	-
付与	-
失効	-
権利確定	-
未確定残	-
権利確定後 (株)	
前連結会計年度末	149,400
権利確定	-
権利行使	125,600
失効	23,800
未行使残	-

単価情報

	平成25年 ストック・オプション
権利行使価格（円）	2,876
行使時平均株価（円）	8,248
付与日における公正な評価単価 （円）	247

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	880百万円	645百万円
繰越欠損金	715	809
賞与引当金	664	699
未払経費	2,049	2,136
固定資産減損損失	933	901
役員退職慰労引当金	10	10
未実現利益	218	247
未払事業税	261	243
返品調整引当金	588	432
たな卸資産評価廃棄損	67	120
ソフトウェア開発費	52	42
関係会社投資損失	15	15
貸倒引当金	126	157
その他	509	681
繰延税金資産小計	7,092	7,143
評価性引当額	2,370	2,475
繰延税金資産合計	4,722	4,668
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	5,623	5,402
為替予約	4	0
投資有価証券売却益	437	301
その他	267	148
繰延税金負債合計	6,332	5,853
繰延税金負債の純額	1,610	1,184

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	3,221百万円	3,234百万円
固定資産 - 繰延税金資産	539	594
流動負債 - 繰延税金負債(その他)	146	162
固定負債 - 繰延税金負債	5,224	4,851

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当連結会計年度 (平成30年12月31日)
法定実効税率 (調整)	法定実効税率と 税効果会計適用後 の法人税等の負担 率との間の差異が	30.81%
税効果未認識項目	法定実効税率の	0.02
欠損子会社の未認識税務利益	100分の5以下であ るため注記を省略 しております。	0.35
税務上欠損金の利用		0.08
試験研究費等の特別控除		3.37
交際費等永久に損金に算入されない項目		0.50
受取配当金等永久に益金に算入されない項目		0.10
その他		0.68
税効果会計適用後の法人税等の負担率		28.77

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 中国の医薬品製造販売会社の全持分の取得

企業結合の概要

1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 江蘇中丹製薬有限公司

事業の内容 医薬品の製造・販売

2) 企業結合を行った主な理由

江蘇中丹製薬有限公司が持つ中国における医薬品製造ノウハウと、当社グループが持つマーケティング力、販売力、研究開発力、技術ノウハウを相互に活用することにより、中国における一般用医薬品の分野において、お客様に新たな価値を提供するためであります。

3) 企業結合日

平成30年6月8日(みなし取得日 平成30年6月30日)

4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする持分取得

5) 結合後企業の名称

江蘇小林製薬有限公司

6) 取得した持分比率

100%

7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

中国に統括会社「小林製薬(中国)有限公司」を設立し、同社が現金を対価として江蘇中丹製薬有限公司の全持分を取得したためであります。

連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

平成30年6月30日をみなし取得日としているため、みなし取得日後の業績が含まれております。

被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得原価につきましては、持分取得の相手先との守秘義務に基づき非開示としておりますが、外部の専門家による算定結果に基づき、また、外部の弁護士及び公認会計士ならびに税理士等による法務・財務に関する調査の結果等を合理的に勘案の上、決定しております。

主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー費用等 276百万円

発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

1) 発生したのれん

1,534百万円

取得原価の分配の完了に伴い、のれんは確定しております。

2) 発生原因

主として被取得企業が事業を展開することによって期待される超過収益力であります。

3) 償却方法及び償却期間

10年にわたる均等償却

企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳につきましては、持分取得の相手先との守秘義務に基づき非開示としております。

のれん以外の無形資産に配分された金額及びその主要な種類別の内訳並びに加重平均償却期間

(主要な種類の内訳並びに加重平均償却期間)

顧客関係資産 324百万円 償却期間 10年

借地権 72百万円 償却期間 36年

企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

重要性が乏しいため記載を省略しております。なお、当該概算額の算定につきましては監査証明を受けておりません。

(2) 日本の化粧品製造販売会社の株式の取得

企業結合の概要

1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 (株) True Nature
事業の内容 化粧品の製造・販売

2) 企業結合を行った主な理由

当社が保有するマーケティング力、販売力、研究開発力と、True Nature社が保有するブランド力を融合することで、スキンケア分野においてお客様に新たな価値を提供できると判断し、True Nature社の全株式を取得し、子会社化することといたしました。

3) 企業結合日

平成30年7月18日(みなし取得日 平成30年7月1日)

4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

5) 結合後企業の名称

(株) True Nature

6) 取得した議決権比率

100%

7) 取得企業を決定するに至った主な経緯

現金を対価として(株) True Natureの全株式を取得したためであります。

連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

平成30年7月1日をみなし取得日としているため、みなし取得日からの業績が含まれております。

被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	700百万円
取得原価		700百万円

主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 9百万円

発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

1) 発生したのれん

687百万円

なお、のれんは確定しております。

2) 発生原因

主として被取得企業が事業を展開することによって期待される超過収益力であります。

3) 償却方法及び償却期間

5年にわたる均等償却

企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	113百万円
固定資産	1百万円
資産合計	115百万円

流動負債	100百万円
固定負債	1百万円
負債合計	102百万円

企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法
 重要性が乏しいため記載を省略しております。なお、当該概算額の算定につきましては監査証明を受けておりません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

- (1) 当該資産除去債務の概要
 事務所施設用建物等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務であります。
- (2) 当該資産除去債務の金額の算定方法
 使用見込期間を取得から10年等と見積り、割引率は取得時における10年国債の利回り等を参考として資産除去債務の金額を計算しております。
- (3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
期首残高	118百万円	119百万円
時の経過による調整額	1	0
期末残高	119	120

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、大阪府その他の地域において、賃貸用の不動産(土地を含む。)を有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は賃貸収益296百万円、賃貸費用78百万円(賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は営業外費用に計上)であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は賃貸収益293百万円、賃貸費用75百万円(賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は営業外費用に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	3,859	3,872
期中増減額	13	24
期末残高	3,872	3,847
期末時価	5,056	5,235

- (注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は土地等の取得(43百万円)であり、減少額は減価償却額(30百万円)であります。当連結会計年度の主な増加額は構築物等の取得(4百万円)であり、減少額は減価償却額(29百万円)であります。
3. 期末の時価は、主として社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価書に基づく金額であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、製品・サービス別の事業本部を置き、各事業本部は、取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

したがって、当社は、事業本部を基礎とした製品・サービス別のセグメントから構成されており、「国内家庭用品製造販売事業」、「海外家庭用品製造販売事業」及び「通信販売事業」の3つを報告セグメントとしております。

「国内家庭用品製造販売事業」及び「海外家庭用品製造販売事業」は、ヘルスケア、日用品、スキンケア及びカイロを製造販売しております。「通信販売事業」は、栄養補助食品、スキンケア製品等を通信販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報
 前連結会計年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸表 計上額 (注)3
	国内 家庭用品製造 販売事業	海外 家庭用品製造 販売事業	通信 販売事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	123,494	21,767	10,179	155,441	1,319	156,761	-	156,761
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,342	1,044	-	7,386	5,242	12,628	12,628	-
計	129,836	22,811	10,179	162,827	6,561	169,389	12,628	156,761
セグメント利益又は損 失()	20,831	828	72	21,588	3,027	24,616	424	24,191
セグメント資産	79,552	24,434	1,725	105,712	11,004	116,717	102,114	218,831
その他の項目 (注)4								
減価償却費	1,913	413	34	2,360	188	2,549	377	2,926
のれんの償却額	12	580	-	593	-	593	-	593
受取利息	23	40	0	63	299	363	90	273
支払利息	41	85	-	126	2	129	90	38
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	2,252	573	46	2,872	172	3,045	315	3,360

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業、合成樹脂容器の製造販売、保険代理業、不動産管理、広告企画制作等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりです。

セグメント利益又は損失の調整額 424百万円は、セグメント間取引消去及び各事業セグメントに配分していない費用及び収益であります。

セグメント資産の調整額に含めた全社資産の金額は102,114百万円であり、その主なものは親会社での余資運用資金(現金および有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

減価償却費の調整額377百万円は、全社資産に係る減価償却費であります。

受取利息の調整額 90百万円及び支払利息の調整額 90百万円は、セグメント間取引消去及び各事業セグメントに配分していない費用及び収益であります。

有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額315百万円は、全社資産の増加額であります。

3. セグメント利益又は損失は、連結財務諸表の経常利益と調整を行っております。

4. 減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用の増加額と同費用に係る償却額が含まれております。

当連結会計年度(自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結財務諸表 計上額 (注)3
	国内 家庭用品製造 販売事業	海外 家庭用品製造 販売事業	通信 販売事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	130,379	25,646	10,245	166,271	1,207	167,479	-	167,479
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6,777	994	-	7,771	5,461	13,233	13,233	-
計	137,156	26,641	10,245	174,043	6,669	180,712	13,233	167,479
セグメント利益	24,006	1,028	148	25,183	2,652	27,836	462	27,374
セグメント資産	82,344	25,415	1,797	109,558	12,445	122,003	108,985	230,989
その他の項目 (注)4								
減価償却費	1,941	443	31	2,416	187	2,603	360	2,964
のれんの償却額	68	371	-	439	-	439	-	439
受取利息	33	69	0	103	310	414	125	289
支払利息	55	105	-	160	-	160	125	35
有形固定資産及び無 形固定資産の増加額	2,882	2,468	39	5,390	687	6,078	336	6,415

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運送業、合成樹脂容器の製造販売、保険代理業、不動産管理、広告企画制作等を含んでおります。

2. 調整額は以下のとおりです。

セグメント利益の調整額 462百万円は、セグメント間取引消去及び各事業セグメントに配分していない費用及び収益であります。

セグメント資産の調整額に含めた全社資産の金額は108,985百万円であり、その主なものは親会社での余資運用資金(現金および有価証券)、長期投資資金(投資有価証券)及び管理部門に係る資産等であります。

減価償却費の調整額360百万円は、全社資産に係る減価償却費であります。

受取利息の調整額 125百万円及び支払利息の調整額 125百万円は、セグメント間取引消去及び各事業セグメントに配分していない費用及び収益であります。

有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額336百万円は、全社資産の増加額であります。

3. セグメント利益は、連結財務諸表の経常利益と調整を行っております。

4. 減価償却費、有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用の増加額と同費用に係る償却額が含まれております。

【関連情報】

前連結会計年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：百万円)

	国内家庭用品 製造販売事業	海外家庭用品 製造販売事業	通信販売事業	その他	合計
外部顧客への売上高	123,494	21,767	10,179	1,319	156,761

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	海外	合計
134,993	21,767	156,761

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎として分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	中国	海外	合計
15,131	1,865	1,249	18,247

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社PALTAC	70,409	国内家庭用品製造販売事業
株式会社あらた	17,208	国内家庭用品製造販売事業

当連結会計年度(自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：百万円)

	国内家庭用品 製造販売事業	海外家庭用品 製造販売事業	通信販売事業	その他	合計
外部顧客への売上高	130,379	25,646	10,245	1,207	167,479

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	海外	合計
141,833	25,646	167,479

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎として分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	中国	海外	合計
15,811	2,018	1,195	19,024

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社PALTAC	77,592	国内家庭用品製造販売事業
株式会社あらた	17,290	国内家庭用品製造販売事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

(単位:百万円)

	国内家庭用品 製造販売事業	海外家庭用品 製造販売事業	通信販売事業	その他	全社・消去	合計
減損損失	337	1,206	-	-	-	1,544

当連結会計年度(自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)

(単位:百万円)

	国内家庭用品 製造販売事業	海外家庭用品 製造販売事業	通信販売事業	その他	全社・消去	合計
減損損失	12	1,944	-	0	-	1,956

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

(単位:百万円)

	国内家庭用品 製造販売事業	海外家庭用品 製造販売事業	通信販売事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	12	580	-	-	-	593
当期末残高	-	2,626	-	-	-	2,626

当連結会計年度(自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)

(単位:百万円)

	国内家庭用品 製造販売事業	海外家庭用品 製造販売事業	通信販売事業	その他	全社・消去	合計
当期償却額	68	371	-	-	-	439
当期末残高	618	2,622	-	-	-	3,241

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自平成29年1月1日 至平成29年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成30年1月1日 至平成30年12月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自平成29年1月1日 至平成29年12月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
役員	小林 一雅	当社代表取締役会長	（被所有） 直接 0.26%	当社役員	新株予約権の行使	11	-	-
役員	小林 豊	当社代表取締役副会長	（被所有） 直接 0.21%	当社役員	新株予約権の行使	11	-	-
役員	小林 章浩	当社代表取締役社長	（被所有） 直接11.73%	当社役員	新株予約権の行使	67	-	-
役員	辻野 隆志	当社取締役副社長	（被所有） 直接 0.03%	当社役員	新株予約権の行使	11	-	-

（注）平成25年6月27日定時株主総会および取締役会の決議に基づき付与された新株予約権の前連結会計年度における権利行使を記載しております。

当連結会計年度（自平成30年1月1日 至平成30年12月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（百万円）	科目	期末残高（百万円）
役員	小林 一雅	当社代表取締役会長	（被所有） 直接 0.26%	当社役員	新株予約権の行使	11	-	-
役員	小林 豊	当社代表取締役副会長	（被所有） 直接 0.20%	当社役員	新株予約権の行使	11	-	-
役員	堀内 晋	当社常務取締役	（被所有） 直接 0.00%	当社役員	新株予約権の行使	11	-	-

（注）平成25年6月27日定時株主総会および取締役会の決議に基づき付与された新株予約権の当連結会計年度における権利行使を記載しております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)		当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)	
1株当たり純資産	1,947円82銭	1株当たり純資産	2,102円49銭
1株当たり当期純利益	201円31銭	1株当たり当期純利益	228円05銭
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	201円03銭	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	227円95銭

(注) 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	15,863	18,023
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	15,863	18,023
期中平均株式数(千株)	78,800	79,033
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する 当期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	111	32
(うち新株予約権(千株))	(111)	(32)
希薄化効果を有しないため、潜在株式 調整後1株当たり当期純利益の算定に含 めなかった潜在株式の概要	-	-

(重要な後発事象)

当社は平成31年1月31日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条第1項の規定に基づき、自己株式を取得すること及びその具体的な取得方法について以下のとおり決議いたしました。

(自己株式取得に関する取締役会の決議内容)

(1) 自己株式の取得を行う理由

株主への一層の利益還元と経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行できるようにするため、自己株式の取得を行うものであります。

(2) 取得に係る事項の内容

取得する株式の種類	: 当社普通株式
取得する株式の総数	: 1,300,000株(上限)
取得する期間	: 平成31年2月1日から平成31年8月31日まで
株式取得価額の総額	: 8,000,000,000円(上限)
取得の方法	: 東京証券取引所における市場買付

(ご参考) 平成30年12月31日時点の自己株式の保有

発行済株式総数	: 82,050,000株
自己株式数	: 2,977,337株

【連結附属明細表】
 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	194	506	0.02	-
1年以内に返済予定のリース債務	55	53	1.29	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	527	472	1.19	平成32年 ~平成42年
合計	777	1,032	-	-

(注) 1. 「平均利率」については、期中の借入金等の増減すべてに対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	52	50	50	49

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	33,715	72,678	115,768	167,479
税金等調整前四半期(当期) 純利益(百万円)	5,403	10,727	19,439	25,304
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	3,821	7,629	13,767	18,023
1株当たり四半期(当期)純 利益(円)	48.39	96.58	174.23	228.05

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	48.39	48.19	77.63	53.82

(注) 第4四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、第2四半期及び第3四半期の関連する四半期情報項目については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の数値を記載しております。

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	54,939	62,497
受取手形	5 21	5 16
売掛金	1 42,798	1 44,872
有価証券	8,300	8,300
商品及び製品	5,555	5,027
仕掛品	258	460
原材料及び貯蔵品	479	620
前渡金	102	-
前払費用	713	568
繰延税金資産	2,064	2,116
関係会社短期貸付金	3,996	4,403
その他	816	764
貸倒引当金	84	91
流動資産合計	119,960	129,555
固定資産		
有形固定資産		
建物	10,242	10,271
減価償却累計額	7,112	7,287
建物(純額)	3,129	2,983
構築物	719	729
減価償却累計額	563	582
構築物(純額)	156	146
機械及び装置	1,221	1,243
減価償却累計額	956	931
機械及び装置(純額)	264	312
車両運搬具	32	39
減価償却累計額	25	17
車両運搬具(純額)	6	21
工具、器具及び備品	4,850	5,113
減価償却累計額	4,095	4,249
工具、器具及び備品(純額)	754	863
土地	2,042	2,042
リース資産	788	778
減価償却累計額	228	271
リース資産(純額)	560	506
建設仮勘定	170	203
有形固定資産合計	7,085	7,080

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
無形固定資産		
特許権	4	4
借地権	12	12
商標権	11	3
電話加入権	0	0
ソフトウェア	769	723
その他	11	8
無形固定資産合計	808	752
投資その他の資産		
投資有価証券	46,056	45,192
関係会社株式	17,188	17,898
出資金	0	0
関係会社出資金	1,385	3,580
長期貸付金	15	17
役員従業員長期貸付金	1	1
関係会社長期貸付金	2,401	2,633
長期前払費用	959	1,383
事業保険積立金	1,011	1,079
施設借用保証金	369	369
投資不動産	2,835	2,839
減価償却累計額	557	568
投資不動産（純額）	2,278	2,271
その他	2,276	2,261
貸倒引当金	1,857	2,110
投資その他の資産合計	70,087	72,577
固定資産合計	77,981	80,409
資産合計	197,942	209,964

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	5,824	5,778
買掛金	14,590	14,729
電子記録債務	4,651	4,197
関係会社短期借入金	3,682	3,987
リース債務	50	50
未払金	20,984	21,319
未払費用	474	573
未払法人税等	3,059	3,316
未払消費税等	413	618
前受金	0	9
預り金	48	57
賞与引当金	1,556	1,642
返品調整引当金	772	543
資産除去債務	38	42
その他	9	-
流動負債合計	51,158	51,868
固定負債		
預り保証金	453	458
リース債務	521	469
繰延税金負債	5,325	5,151
長期未払金	1,436	1,422
退職給付引当金	90	70
資産除去債務	81	77
固定負債合計	7,909	7,650
負債合計	59,067	59,518

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,450	3,450
資本剰余金		
資本準備金	4,183	4,183
資本剰余金合計	4,183	4,183
利益剰余金		
利益準備金	340	340
その他利益剰余金		
開発積立金	330	330
別途積立金	116,292	127,192
繰越利益剰余金	13,359	14,195
利益剰余金合計	130,322	142,057
自己株式	12,259	11,763
株主資本合計	125,696	137,928
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	13,131	12,515
繰延ヘッジ損益	9	2
評価・換算差額等合計	13,140	12,518
新株予約権	36	-
純資産合計	138,874	150,446
負債純資産合計	197,942	209,964

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
売上高		
製品売上高	133,522	141,456
売上原価		
商品及び製品期首たな卸高	4,643	5,555
当期製品製造原価	61,710	63,022
合計	66,353	68,577
他勘定振替高	14,242	14,203
商品及び製品期末たな卸高	5,555	5,027
売上原価	256,556	259,347
たな卸資産廃棄損	1,308	1,198
売上原価合計	57,864	60,545
売上総利益	75,657	80,911
返品調整引当金繰入額	759	502
返品調整引当金取崩額	708	730
差引売上総利益	75,605	81,139
販売費及び一般管理費		
販売促進費	7,731	8,067
運賃保管料	3,215	4,030
広告宣伝費	20,347	21,284
給料手当及び賞与	7,469	7,956
退職給付費用	770	770
貸倒引当金繰入額	27	23
租税公課	530	546
減価償却費	467	465
のれん償却額	13	-
賃借料	1,009	1,021
支払手数料	5,570	5,810
研究開発費	6,982	6,700
その他	4,169	4,472
販売費及び一般管理費合計	58,305	61,149
営業利益	17,300	19,989
営業外収益		
受取利息	233	235
受取配当金	22,454	21,817
不動産賃貸料	2,526	2,529
その他賃貸料	10	12
受取補償金	1,500	1,200
その他	206	258
営業外収益合計	4,930	4,053

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
営業外費用		
支払利息	18	18
売上割引	610	609
不動産賃貸原価	244	191
その他賃貸原価	10	12
為替差損	174	155
貸倒引当金繰入額	141	265
その他	120	145
営業外費用合計	1,320	1,399
経常利益	20,910	22,643
特別利益		
固定資産売却益	0	-
投資有価証券売却益	3	0
新株予約権戻入益	0	5
その他	3	-
特別利益合計	7	6
特別損失		
固定資産処分損	335	332
貸倒引当金繰入額	0	-
減損損失	337	9
製品不良関連損失	82	-
その他	0	0
特別損失合計	455	42
税引前当期純利益	20,463	22,606
法人税、住民税及び事業税	5,573	5,957
法人税等調整額	213	9
法人税等合計	5,359	5,947
当期純利益	15,103	16,659

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日）

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
						開発積立金	別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	3,450	4,183	775	4,958	340	330	122,292	9,262	132,225
当期変動額									
別途積立金の積立									-
別途積立金の取崩							6,000	6,000	-
剰余金の配当								4,336	4,336
当期純利益								15,103	15,103
自己株式の取得									-
自己株式の処分			3,335	3,335					-
自己株式の消却			10,110	10,110					-
利益剰余金から資本剰余金への振替			12,670	12,670				12,670	12,670
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	775	775	-	-	6,000	4,097	1,902
当期末残高	3,450	4,183	-	4,183	340	330	116,292	13,359	130,322

	株主資本		評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
当期首残高	21,088	119,545	9,393	40	9,433	67	129,046
当期変動額							
別途積立金の積立			-				-
別途積立金の取崩			-				-
剰余金の配当		4,336					4,336
当期純利益		15,103					15,103
自己株式の取得	4,999	4,999					4,999
自己株式の処分	3,718	383					383
自己株式の消却	10,110	-					-
利益剰余金から資本剰余金への振替			-				-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			3,738	31	3,707	30	3,676
当期変動額合計	8,828	6,150	3,738	31	3,707	30	9,827
当期末残高	12,259	125,696	13,131	9	13,140	36	138,874

当事業年度（自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日）

(単位：百万円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計
					開発積立金	別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	3,450	4,183	-	4,183	340	330	116,292	13,359	130,322
当期変動額									
別途積立金の積立							10,900	10,900	-
別途積立金の取崩									-
剰余金の配当								4,819	4,819
当期純利益								16,659	16,659
自己株式の取得									-
自己株式の処分			104	104					-
自己株式の消却									-
利益剰余金から資本剰余金への振替			104	104				104	104
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	10,900	835	11,735
当期末残高	3,450	4,183	-	4,183	340	330	127,192	14,195	142,057

	株主資本		評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計		
当期首残高	12,259	125,696	13,131	9	13,140	36	138,874
当期変動額							
別途積立金の積立							-
別途積立金の取崩			-				-
剰余金の配当		4,819					4,819
当期純利益		16,659					16,659
自己株式の取得			-				-
自己株式の処分	496	392					392
自己株式の消却			-				-
利益剰余金から資本剰余金への振替			-				-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）			615	7	622	36	659
当期変動額合計	496	12,231	615	7	622	36	11,572
当期末残高	11,763	137,928	12,515	2	12,518	-	150,446

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

総平均法による原価法によっております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

デリバティブ

時価法によっております。

3. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品、原材料

移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

(2) 製品、仕掛品、貯蔵品

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）によっております。

4. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法によっております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

(3) 長期前払費用

均等償却しております。

(4) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権等の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 返品調整引当金

返品損失に備えるため、返品損失見込額を計上しております。

(4) 退職給付引当金

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき事業年度末に発生していると認められる額を計上しております。

数理計算上の差異は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日から費用処理することとしております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

6. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお為替予約及びオプションについて振当処理の条件を充たしている場合は振当処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約及びオプション

ヘッジ対象...外貨建債務及び外貨建予定取引

(3) ヘッジ方針

外貨建予定取引に関して、為替予約及びオプションを付し為替変動リスクをヘッジする方針であります。

(4) ヘッジ有効性の評価方法

通貨関連の取引につきましては、ヘッジ対象の時価変動額とヘッジ手段の時価変動額を比較し、両者の変動額等を基礎にして判断しております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1)退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(表示方法の変更)

前事業年度において、「特別利益」の「その他」に含めていた「新株予約権戻入益」は、特別利益の総額の100分の10を超えたため、当会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「特別利益」の「その他」に表示していた3百万円は、「新株予約権戻入益」0百万円、「その他」3百万円として組み替えております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社項目

関係会社に対する金銭債権及び金銭債務には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
短期金銭債権		
売掛金	2,789百万円	2,389百万円
短期金銭債務		
買掛金	12,747	12,461

2 担保資産

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
(1) 定期預金	42百万円	42百万円
担保に係る債務(保証債務)	25百万円	21百万円
(2) 差入保証金	80百万円	80百万円
(注) 関税法・消費税法に基づく納期限延長制度を利用する際の担保として供託しているものであります。		

3 保証債務

被災地中小企業の金融機関からの借入に対して、債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
被災地中小企業	25百万円	21百万円

次の関係会社について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
Kobayashi Healthcare Europe,Ltd	3百万円	6百万円

4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	15,500百万円	15,500百万円
借入実行残高	-	-
差引額	15,500	15,500

5 期末日満期手形

事業年度末日満期手形の会計処理については、事業年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。事業年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
受取手形	0百万円	0百万円
支払手形	208	156

(損益計算書関係)

1 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
仕掛品へ振替高	2,956百万円	2,984百万円
たな卸資産廃棄損	836	785
販売費及び一般管理費他へ振替	449	433
計	4,242	4,203

2 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
関係会社への原材料費及び 製品外注費(製造原価)	36,731百万円	38,596百万円
関係会社からの不動産賃貸料	354	361
関係会社からの受取配当金	2,077	1,402

3 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)	当事業年度 (自 平成30年1月1日 至 平成30年12月31日)
建物	8百万円	3百万円
機械及び装置	4	12
工具、器具及び備品	17	10
ソフトウェア	0	0
その他	4	6
計	35	32

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式17,848百万円、関連会社株式50百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式17,138百万円、関連会社株式50百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
繰延税金資産		
関係会社株式等評価損	2,488百万円	2,488百万円
退職給付引当金	27	21
固定資産減損損失	640	622
未払経費	1,556	1,624
賞与引当金	479	501
たな卸資産評価廃棄損	72	48
未払事業税	182	194
返品調整引当金	237	166
貸倒引当金	593	673
ソフトウェア開発費	52	42
その他	515	666
繰延税金資産小計	6,846	7,049
評価性引当額	4,264	4,340
繰延税金資産合計	2,581	2,709
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	5,554	5,340
為替予約	4	0
長期前払費用	284	403
繰延税金負債合計	5,842	5,745
繰延税金負債の純額	3,261	3,035

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成29年12月31日)	当事業年度 (平成30年12月31日)
法定実効税率	30.81%	30.81%
(調整)		
税効果未認識項目	0.38	0.33
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	3.24	2.02
試験研究費等の特別控除	2.74	3.41
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.71	0.52
その他	0.27	0.08
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.19	26.31

(重要な後発事象)

連結注記事項(重要な後発事象)をご参照ください。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	10,242	59	30 (2)	10,271	7,287	199	2,983
構築物	719	9	-	729	582	19	146
機械及び装置	1,221	136	113 (5)	1,243	931	66	312
車両運搬具	32	19	11	39	17	3	21
工具、器具及び備品	4,850	550	287 (1)	5,113	4,249	430	863
土地	2,042	-	-	2,042	-	-	2,042
リース資産	788	-	10	778	271	52	506
建設仮勘定	170	415	382	203	-	-	203
有形固定資産 計	20,066	1,191	836 (9)	20,421	13,341	772	7,080
無形固定資産							
特許権	55	0	12	43	39	0	4
借地権	12	-	-	12	-	-	12
商標権	1,535	-	1	1,533	1,530	7	3
ソフトウェア	3,182	286	58	3,410	2,686	332	723
電話加入権	0	-	-	0	-	-	0
その他	19	-	-	19	11	3	8
無形固定資産 計	4,806	287	72	5,020	4,268	343	752
長期前払費用	1,324	1,376	947	1,752	368	9	1,383
繰延資産 計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

金型等の取得 379百万円(工具、器具及び備品)

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

金型等の除却 244百万円(工具、器具及び備品)

3. 「当期減少額」の欄の()は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	1,941	302	12	*30	2,202
返品調整引当金	772	543	-	*772	543
賞与引当金	1,556	1,642	1,556	-	1,642

(注)* 貸倒引当金・返品調整引当金の当期減少額のその他は、主に洗替による戻入であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	(中間)6月30日、(期末)12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	(注)
取扱場所	(特別口座) 大阪府中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
買取り・買増し手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行う。 公告掲載URL(当社ウェブサイト) https://www.kobayashi.co.jp
株主に対する特典	株主優待制度(6月末日および12月末日現在100株以上保有の株主に対して、自社製品の詰め合わせセットを贈呈) 12月末日時点で、300株以上かつ3年以上保有している株主には、「復興支援 選べるギフト」を追加で進呈(年1回)

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は次の権利以外の権利を有しておりません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 単元未満株式の買増しの請求をする権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第100期)(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)平成30年3月29日近畿財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成30年3月29日近畿財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

(第101期第1四半期)(自 平成30年1月1日 至 平成30年3月31日)平成30年5月9日近畿財務局長に提出

(第101期第2四半期)(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)平成30年8月7日近畿財務局長に提出

(第101期第3四半期)(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)平成30年11月13日近畿財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成30年3月30日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書であります。

平成30年4月9日近畿財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号の規定に基づく臨時報告書であります。

(5) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

平成30年4月4日近畿財務局長に提出

事業年度(第100期)(自 平成29年1月1日 至 平成29年12月31日)の有価証券報告書に係る訂正報告書及びその確認書

(6) 臨時報告書の訂正報告書

平成30年4月25日近畿財務局長に提出

平成30年4月9日提出の臨時報告書に係る訂正報告書であります。

平成30年6月19日近畿財務局長に提出

平成30年4月9日提出の臨時報告書に係る訂正報告書であります。

(7) 自己株券買付状況報告書

報告期間(自 平成31年1月1日 至 平成31年1月31日)平成31年2月6日近畿財務局長に提出

報告期間(自 平成31年2月1日 至 平成31年2月28日)平成31年3月8日近畿財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成31年3月28日

小林製薬株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	前川 英樹 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松浦 大 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている小林製薬株式会社の平成30年1月1日から平成30年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、小林製薬株式会社及び連結子会社の平成30年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、小林製薬株式会社の平成30年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、小林製薬株式会社が平成30年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書及び内部統制監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成31年 3月28日

小林製薬株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 前川 英樹 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松浦 大 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている小林製薬株式会社の平成30年1月1日から平成30年12月31日までの第101期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、小林製薬株式会社の平成30年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。